

274. I wish to become *an* Edison.

Edison のやうな人の意ですから *an* 入用。

275. 原文で誤りなし。Robinson Crusoe は本の名ですが、元來小説の主人公の名です。斯んな風に元來の固有名詞を、そのまゝ本の名にしたものには、*the* を附けないがきまりになつてゐます。

次に冠詞の省略さいふことを述べて、此章を終ることにしませう。今まで述べて來ましたのは、總て冠詞を附けねばならぬ場合でしたが、これからは、其反對に冠詞を附けてはならぬ場合をお話するのです。

(1) 呼び掛けの名詞には、總て冠詞を附けません。

Young man, where are you going?

What are you doing, *boy*?

(2) 官職名で、同格語や補足語の役目をするものには、冠詞を附けません。

Mr. Toyotomi, *Prime Minister*, went to Oiso.

豊臣氏(首相)は大磯へ行つた。

He was appointed *Home Minister*.

彼は内務大臣に任ぜられた。

(the) Prime Minister [praɪm mɪnɪstə ぷらいムミニスタ] 總理大臣。 was appointed [əpɔɪntɪd ɔːpɔɪntɪd] 任命された。 (the) Home [haʊm ほうム] Minister 内務大臣。

(3) 血統をあらはす語句で、同格語や補足語の役目をするものにも、同様冠詞を附けません。

Masatsura, *son* of Masashige, fell at Shijō-Nawate.

Masatsura is *son* of Masashige.

(4) 自分の家族の人をあらはす語には、冠詞を附けません。

Father and *mother* are out.

父母は不在です。

たゞし、他人の家族には、勿論冠詞は入用です。

The father and *the mother* of John are out.

ジョンの父母は不在です。

(5) 次の語が、其物を指さないで、括弧内に附記してあるやうな其物が使はれる目的事を言ふ意に使はれる時には冠詞は附けません。

school (稽古)

church (禮拜)

hospital (治療)

prison (懲役)

market (賣買)

bed (睡眠)

table (食事)

desk (勉強)

are out 不在です。 hospital [hɒspɪtəl ほうスピタル] 病院。 prison [prɪzn ぷりズン] 牢屋。 market [mɑːkɪt まーキト] 市場。 bed [bed ベド] 寢臺。 table [teɪbəl てイブル] 食卓。 desk [desk デスク] 机。

School is over.

稽古が済んだ。

I go to church every Sunday.

私は毎日曜日に教會へ(禮拜に)行く。

Is he in bed?—No, he is at table.

彼は睡眠中ですか—いえ、食事中です。

併し、語其儘の意味の時には、勿論冠詞が入用です。

The school is opposite the church.

學校は教會堂の向側にある。

There is a table in the centre of the room.

部屋の中央に食卓があります。

(6) *and, in, from~to, by, after* なぎでつながれて、對になつてゐる語には、冠詞は附けません。

Master and servant love each other.

主從互に愛してゐる。

They went hand in hand.

手を引きあつて行つた。

Bees are flying from flower to flower.

蜜蜂が花から花に飛んでゐる。

is over [óuvə おウグア] 済む、終る。 *opposite* [əpózit オポジット] 向側に。 *centre* [séntə セヌタ] 中心、中央。 *each other* 互に。 *are flying* [fláiiŋ] フライイン] 飛んでゐる。

It becomes colder day by day.

日に日に寒くなつて行きます。

He is getting rich year after year.

彼は年々金持になつて行きます。

(7) 交通機關なぎで、*by* や *on* で始まる句には冠詞は附けません。

by train 汽車で。 *by ship* 船で。

by land 陸路を。 *by sea* 海路を。

on foot 徒歩で。 *on bicycle* 自轉車で。

たゞし、*in* なぎ、別の前置詞を使へば、*in a ship* (船中にて) のやうに、冠詞は入用です。

(8) 現在を基準として、*next, last* の附く句には冠詞は不用です。

next Sunday (此次の日曜) *last Monday* (此前の月曜)

next year (來年) *last month* (先月)

next week (來週) *last night* (昨夜)

たゞし、現在以外の時を基準にする場合には、冠詞の *the* を附けねばなりません。

The last Sunday of this month.

今月の最後の日曜日。

become(s) [bikám(z)] ビカム(ズ) なる。 *is getting* なつて行く。 *train* [trein トレイヌ] 汽車。 *foot* 足。 *bicycle* [báisikl] ばイスィクル] (二輪の) 自轉車。

The next week of that time.

その時の次の週。

The last year of that time.

その時の前年。

[例題]

次の文の誤を訂正して下さい。

276. This road leads to church.

277. He will return home the next year.

278. The bird was hopping from a branch to
a branch.

279. Travelling by the train is less instructive
than on the foot.

280. He left the hospital yesterday.

276. lead [li:d リード] 導く。 278. hopping [hɒpɪŋ ほピン] ピョンピョンと。 branch [bra:ntʃ ブランチ] 枝。 travelling [trævlɪŋ トレアヴリン] 旅行。 less instructive [ɪnstrʌktɪv イヌストラクティヴ] (より) 少く教訓的、たのになることが少く、 280. left [left れフト] 立去つた。

276. この道は教會堂へ導く(此道を行くと教會堂に行かれる)。 277. 彼は來年歸朝する筈。 278. 鳥が枝から枝へととんでゐた。 279. 汽車での旅行は徒歩旅行より益になることが少い。 280. 彼は昨日退院した。

281. His father was a soldier and a scholar.

282. He travelled from a place to a place, a
flute in a hand.

283. They sat the side by the side.

284. He was the uncle to the king.

285. He is a professor in the University.

[答]

276. church の前に the を入れます。こゝのは教會堂の建物を指すので、「禮拜」の意ではありませんから。

277. the next year の the を削ります。「來年」の意ですから。

278. from a branch to a branch の双方の a を削ります。對になつた句ですから。

279. by the train, on the foot の the を二つとも削ります。

281. soldier [sɔʊldʒə ソウルヂャ] 軍人。 scholar [skɔlə スコラ] 學者。 282. place [pleɪs プレイス] 場所。 flute [flu:t フルート] 笛。 283. sat [sæt セアト] 坐した、着席した。 side [saɪd サイド] 側。 285. professor [prɒfəˈsɜːsə プラフエサ] 教授。 university [juːnɪˈvɜːsɪti ユニヴァーシテイ] 大學。

281. 彼の父は軍人で且つ學者だ。 282. 彼は笛を携へて、諸方に旅した。 283. 彼等は並んで着席した。 284. 彼は王の叔父であつた。 285. 彼は大學の教授です。

280. *the hospital* の *the* を削ります。「退院した」「治療」を受けなくともよくなつたの意で、建物を指すのでありませんから。
281. *a soldier and a scholar* の後の *a* を削ります。「軍人と學者」を、別々の二人をいふのでしたら、双方に冠詞は入用ですが、このやうに「軍人兼學者」を、同一人を指す場合には、最初に一つだけ冠詞を附ければ、それでよろしいのです。
282. *from a place to a place* の両方の *a*, *a flute in a hand* の両方の *a* を全部削ります。對になつた句ですから。
283. *the side by the side* の *the* を二つとも削ります。「相並んで」の意の對句ですから。
284. *the uncle* の *the* を削ります。補足語で、血筋を示す語ですから。たゞし *the king* の *the* は勿論入用です、削つてはいけません。
285. *a professor* の *a* を削ります。官職名で、補足語ですから。たゞし、*the University* の *the* は入用です、勿論削つてはいけません。

これでやつと冠詞のお話を終るごころになりました。中々面倒な規則が澤山ありますから、幾度も繰りかへし讀んで、確かり覚えてしまつて下さいませ。

14.

形容詞と副詞の種類と其名稱

形容詞には三種あります。(1) 性質形容詞 (Qualifying Adjective)、(2) 數量形容詞 (Quantitative Adjective)、(3) 代名形容詞 (Pronominal Adjective) がそれです。

副詞にも同じく三種あります。(1) 單純副詞 (Simple Adverb)、(2) 疑問副詞 (Interrogative Adverb)、(3) 關係副詞 (Relative Adverb) がそれです。

- (1) 性質形容詞の中には、pretty (美しき) good (よき) bad (悪しき) なごいふ純粹の形容詞の外に
- (a) 固有形容詞を申して、固有名詞から轉じた形容詞
English (英國の) *Japanese* (日本の)
- (b) 物質形容詞を申して、物質名詞から轉じたもの
a gold watch (金時計) *an iron bridge* (鐵橋)
- (c) 分詞狀形容詞を申して、動詞の分詞の形をいふのが形容詞の役目をするもの

adjective [ædʒektɪv エアヂェクトイヴ], qualifying [kwɒlɪfaiɪŋ クウオリフエイイン] 性質を示す。quantitative [kwɒntɪtətɪv クウオヌトイクトイヴ] 量を示す。pronominal [prənɒmɪnəl プロノウミナル] 代名詞的の。watch [wɒt] ウオチ] 懐中時計, bridge [brɪdʒ ブリヂ] 橋,

a *broken* pot (壊れた壺) a *written* letter (書いた手紙)
 こ、合計四つあります。分詞のこは、後に動詞の説明中
 に申す豫定ですから、こに省きます。

物質形容詞は、通例は物質名詞そのまゝが、修飾せられ
 る名詞の前に附いて、形容詞の役目をするのですが、

wood (木) wool (羊毛) oak (櫟の木) earth (土)
 の四つだけは、形容詞の役目をする場合は、そのまゝを使
 はないで、その語尾に *en* を附けた形を使つて

a *wooden* house (木造の家)

a *woolen* shirt (羊毛製のシャツ)

an *oaken* pole (櫟の棒)

an *earthen* pot (土焼の壺)

こいつた風に使はれるのです。また *gold* は「金製の」の意
 には、そのまゝ使ひますが、「金のやうな色をした」「金の
 やうな貴重な」なご、たごへに使はれる場合には、*en* を附
 けた形を使つて

a *golden* hair 金髪、(金のやうな色をした毛髪)

a *golden* age (黄金時代、金のやうな立派な泰平時代)

こいはれるのです。

broken [bróukn ブロウクヌ] 壊れたる。 *pot* [pɒt ぼト] 壺。 *written*
 [rɪtɪn リトヌ] 筆記されたる。 *wood(en)* [wud(n) ウウド(ヌ)]、*wool(en)* [wul
 (n) ウウル(ヌ)]。 *oak(en)* [ouk(n) オウク(ヌ)]。 *earth(en)* [ə:θ(n) あ
 ース(ヌ)]、*shirt* [ʃə:t しゃト]。 *pole* [pəul ぼウル]。

固有形容詞の主なものは、前記の English と Japanese
 の外に

名詞	形容詞
America	American
France	French
Germany	German
Russia	Russian
Italy	Italian
Asia	Asiatic また Asian
Africa	African
Europe	European
China	Chinese
Christ	Christian
Buddha	Buddhist

都會の名、地名なごは普通その形のまゝ形容詞にも使ひ
 ます。

a *London* banker (ロンドンの銀行家)

a *Paris* artist (パリスの畫家)

America(n) [əmérikə(n) アメリカ(ヌ)]、*France* [frɑ:ns フラヌス]、*French* [frentʃ フレヌチ]、*Germany* [dʒɜ:məni ぢマニ]、*German* [dʒɜ:mən ぢマヌ]、*Italy* [ítali イタリア]、*Italian* [itæljən イテアリャヌ]、*Asia* [éiʃə スイシャ]、*Asiatic* [eɪʃætɪk エイシャトイク]、*Asian* [éiʃən スイシャヌ]、*Africa* [æfrɪkə エアフリカ]、*African* [æfrɪkən エアフリカヌ]、*Europe* [júərəp ユアラブ]、*European* [juərəpiən ユアラビアン]、*China* [tʃáinə ちゃイナ]、*Chinese* [tʃáinɪz チイニズ]、*Buddha* [búda: ブダ] 佛。固有形容詞はまた「日本語」「日本人」といつた風に「～語」「～人」の意にも使ひます。

a Tokyo school (東京の學校)

(2) 數量形容詞とは、「數」「量」「度」をあらはす形容詞です。「數」は區別するこ

數	{	不定數—some, any, no, many, a few の類
		基數—one, two, three の類
		定數 { 序數—first, second, third の類
		倍數—double, three times, half の類

「數」をあらはす形容詞は、數のある名詞、即ち普通名詞か集合名詞をのみ修飾して、其他の名詞には使はれないこは申すまでもありません。

「量」をあらはす形容詞は、「數」を數へられないで、其分量に就きいふ事物の名、即ち物質名詞を修飾する語で、其主なものは、some, any, no (此三語は「數」をあらはすにも使ひます) much, a little の類です。

「度」をあらはす形容詞は、形のない事物の名、即ち抽象名詞に附けて、「過度の勉強」「適度の勤勉」なごいつた意をあらはすので、これに使ふ語は、「量」をあらはすこ同じ語、即ち some, any, no, much, a little 等です。

(3) 代名形容詞とは、使ひ様によつては、代名詞なる語で、既述の (a) 形容代名詞の外、(b) 疑問代名詞、(c) 關係代名詞も、その次に、それに修飾せられる名詞が附け

ば、形容詞となつてしまひます。

What is the book? (代名詞)

What book is it? (形容詞)

This is what I told you.

これは私が君に話したものです (代名詞)

This is what book I told you.

これは私が君に話した本です (形容詞)

尙、これ等の語の詳しい説明は、總て進んだ文法書に譲ります。

[例題]

次の文中の形容詞を指摘し、其種類を答へて下さい。

286. This is a pretty flower.

287. He is a wise man.

288. The English language is spoken all over the world.

289. He spends much money on books.

286. これは美しい花だ。287. 彼は物議り(賢い男)だ。288. 英語は世界中にずっと話されてゐます。「英語」は English とだけでもよろしいが、これは元來は language [læŋɡɪdʒ レアングィヂ、語] が略されたものなのです。is spoken [spóʊkn スボウクス] 話されてゐる。all over the world 世界中にずっと。289. 彼は書物に多額の金を使ふ、spend [spend スベヌド] 使ふ、費す。

290. Give me some water.
 291. There are twenty-four hours in a day.
 292. The first boy is Taro.
 293. I have drunk a little wine.
 294. Few men are rich.
 295. He spends half his income on clothing.
 296. I have paid double the usual price.
 297. Which book do you want?
 298. Whose umbrella is this?
 299. Each bank of the river is covered with trees.
 300. This pencil won't do. Please show me another one.

290. 私に水を少し下さい。291. 一時間には二十四時間ある。292. 第一の少年は太郎です。293. 私は少し(葡萄)酒を飲みました。have drunk [drʌŋk ドラック] 飲んだ。wine [wain わイス] 葡萄酒。また一般の「酒」の意にも使ふ。294. 金持の人は少い。295. 彼は衣類にその収入の半分を使ふ。income [ɪŋkəm インカム] 収入。clothing [klóúðɪŋ クロウズイン] 衣類。296. 私は平素の代金の二倍を拂った。have paid [peɪd ペイド] 拂った。usual [ju:ʒəl ユーザル] 平素の。price [praɪs プライス] 價。297. 君はどちらの(またどの)本がお入用ですか。298. これは誰の傘ですか。299. 河のどちらの堤も木で蔽はれてゐます(一面に木が植ゑてあります)。bank [bæŋk ベアック] 堤。is covered [kʌvəd カヴァド] with.....で蔽はれてゐる。300. この鉛筆はいけません。どうぞ外を見せて下さい。won't [wɒnt ウオウト] (=will not) do いけない、役に立たぬ。show [ʃəʊ ショウ] 見せる、示す。another [ənʌðə アナザ] 別の(一つの)。

[答]

286. pretty は性質形容詞で、普通名詞の flower を修飾してゐます。this は此文では形容代名詞です。これを This flower is a pretty one. (此花は美しい花です) とするに、this は flower を修飾する代名形容詞になります。さうして、one は「一つの」意の数量形容詞でなく、こゝでは同じ名詞 flower の代用をする代名詞です。
287. wise は性質形容詞で、普通名詞の man を修飾してゐるのです。
288. English は性質形容詞中の固有形容詞で、普通名詞の language を修飾してゐます。
289. much は数量形容詞で、物質名詞の money を修飾し、その量を示してゐます。
290. some も数量形容詞で、物質名詞の water を修飾し、その量を示してゐます。
291. twenty-four は数量形容詞中の基数で、普通名詞の hours を修飾してその数を示してゐます。
292. first は数量形容詞中の序数で、普通名詞の boy を修飾して、其順序を示してゐます。
293. a little は数量形容詞で、物質名詞の wine を修飾し、其量を示してゐます。

この little (much の反対「少量の」の意)でも、次の few (many の反対で、「少数の」の意)でも、a が附くこ、附かぬこで、心持が非常にちがひますから、注意して下さい。

I have *a little* money.

少しは金を持つてゐる。

I have *little* money.

少ししか金を持つてゐない。

I have *a few* pens.

ペンは少しはある。

I have *few* pens.

ペンは少ししかない。

きれだけ以上が、a を附け、以下が a を附けないこいふのではありません。其時の心持により「少しはある」こ「ある」方に強い意味を持たせる場合には、a を附け、「少ししかない」こ「ない」方に強い意味を持たせる場合には、a を附けないのです。従つて本題も、a がなくば「私は少ししか酒は飲みません」の意なるのです。

294. few は数量形容詞中の、不定数を示す語で、普通名詞の men を修飾し「少数の人しか金持はない」「金持の人は少い」の意をあらはすのです。若し A few men こ a が附いてをれば「金持の人も少しはある」こなります。rich は性質形容詞で、主部の補足語たる

役目をしてゐます。

295. half は数量形容詞中の倍数をあらはす語で、income こいふ名詞を修飾してゐます。

296. double も同様に、price こいふ名詞を修飾してゐます。usual も同じく price を修飾する性質形容詞です。

297. which は名詞の book を修飾する疑問形容詞で、代名形容詞の一種です。

298. whose は形容詞ではありません。前題の which が形容詞だから、これもさうだこ考へるのは、my, our 等の人稱代名詞の所有格普通形を形容詞だこ考へるこ同じ誤解です。形容詞こ同じ修飾語たる役目をしてゐるには相違ありませんが、これは代名詞です。

299. each は名詞 bank を修飾する代名形容詞です。

300. this こ another も同様に、名詞の pencil こ代名詞の one を修飾してゐる代名形容詞です。

次は副詞ですが、これは前にも申した通り、別つて次の三つこするが普通です。

(1) 單純副詞は、唯副詞だけの役目をする語で、大多数の副詞は、皆この種に屬するのです。

(2) 疑問副詞、(3) 關係副詞は、既に詳しく述べたここですから、こゝに繰り返りかへし説明いたしません。

[例題]

次の文中の副詞を指摘し、その種類と用法を答へて下さい。

301. He often comes here.
 302. Where does he live?
 303. This is the place where he lives.
 304. This is where he lives.
 305. I don't know where he lives.
 306. The bird flew away.
 307. I never heard him speak English.
 308. Is this not good?—No, it is not good.
 309. The sooner he comes, the better it will be.
 310. He gets up early. He is an early riser.

301. 彼は度々此處へ來ます。often [ɔːfn お | フヌ]。302. 彼は何處に住んでゐますか。303. これは彼の住んでゐる(所の)場所です。304. これは彼が住んでゐる所です。305. 私は何處に彼が住んでゐるか知りません。306. 鳥は飛び去つた。flew [fluː フル |] 飛んだ。away [əweɪ アウエイ] ちらへ。私は一度も彼が英語を話すのを聞かなかつた。never [névə ねヴ] 一度も……ぬ、決して……ぬ。heard [hə:d は | ド] 聞いた。308. これはよくありませんか。はい、よくありません。309. 彼は早く來れば來るほどよい。310. 彼は早く起きます。彼は早起き(の人)です

[答]

301. often と here はどちらも動詞の come を修飾する單純副詞。
 302. where は疑問副詞で、動詞の live を修飾す。
 303. 同じ where でも、これは關係副詞で、名詞の place を修飾する形容節を導いてゐます。
 304. この where も同じく關係副詞で、先行語の the place を略してある點が、上題の where ちがふだけです。これは詳しく説明しませんでした。關係代名詞の先行語は略すことは出来ない規則ですが、關係副詞の先行語は、本題のやうに略しても、少しも差支ないのです。
 305. 同じ where でも、これは疑問副詞の方です。302 の where と同じですが、あれは唯疑問詞たるの役目だけをしてゐるもので、本題のは、連接部と二つの役目を兼ねて、動詞 know の目的部たる名詞節の先導になつてゐるのです。
 306. away は動詞の flew を修飾する單純副詞です。
 307. never は動詞の heard を修飾する單純副詞です。
 308. not は二つとも、動詞の is を修飾する單純副詞です。no も同上單純副詞で、全文を否定する役目をしてゐるのです。同じわけで、yes は全文を肯定する矢張り副詞です。尙、この yes, no の使ひ方に就き、少しお話したいことがあります。

先づ本題を譯して御覽なさい、no の使ひ方が變だと思はれないでせうか。「これはよくないか。いえ、よくない」全く變でせう。「はい」は言はなくてならぬ所です。

日本語では

「よいか」「はい、よい」

「よくないか」「はい、よくない」

「よいか」「いえ、よくない」

「よくないか」「いえ、よろしい」

さいつた風に、問の通りの時に「はい」問の通りでない時に「いえ」を答へますが、英語の yes, no はさうでないのです。問がさうであらうと、「よい」を肯定する場合には、yes を答へ、「よくない」を否定する場合には、no を答へるのであります。ですから

Is it good? { Yes, it is good.
 { No, it is not good.

この yes は「はい」no は「いえ」で、日本語と同じです。併し

Is it not good? { Yes, it is good.
 { No, it is not good.

斯んな風に、否定の問に對しては、yes が「いえ」no が「はい」に相當するのです。即ち日本語を正反對で、日本人はよくまちがへますから、大に注意せんければなりません。

309. sooner は動詞の come を修飾する單純副詞です。

併し better は動詞 be を修飾する副詞なき、誤解してはいけません、これは主語の it を修飾してゐる補足語なので、實は

He will come the sooner, it will be the better.

であるべきを、the sooner だの the better なさいふ比較級(次章参照)の語句は、特に主語と動詞との前に置くさいふ特別の規則によつて、語順が變つてゐるのです。

それから、本題の二つの the は冠詞ではないのです。冠詞は名詞に附く語ですが、本題には名詞は一つもありません。それではこれ等の the は何かを申す、前の the は「……れば……るだけ」の意をあらはす關係副詞で、後の the は「それだけ」の意をあらはす單純副詞なのです。「彼ははやく來れば來るだけ (the) それだけ (the) よろしいでせう」さいふのが、此文の意味です。

斯んな風に、比較級の語の前に附く the は冠詞でなく、副詞であつて、そんな形が二つ並ぶ時は、前の the は關係副詞、後の the は單純副詞であることをよく覚えて置いて下さい。

The higher we climb, the colder it becomes.

高く登れば登るだけ、それだけ寒くなる。

The more we have, the more we want.

澤山持てば持つだけ、それだけ澤山不足を感じる。

人間の慾は限りのないもので、財産が増せば増すほごもつこほしいこいふ望みが深くなるここなごを考へたら、此文の意味はわかるでせう。

310. 前文の early は動詞の get を修飾する單純副詞ですが、後の early は普通名詞の riser (起床する人) を修飾する性質形容詞です。斯んな風に、同じ語で、使ひ方により別の品詞になる例は澤山あるのですから、一がいに、この語は何詞を思ひ込んではいけません。

15.

形容詞、副詞の變化と用法

形容詞や副詞は、名詞や代名詞のやうに、「數」「性」「格」「人稱」の變化はありません。「よい人」を單數を修飾するにも、a good man 「よい人々」を複數を修飾するにも、同じく good men ですし、また「よい男」を男性を修飾する場合も「よい女」を女性を修飾する場合にも同じ good を使つて、a good man, a good woman をすればよいわけです。「主格」を説明する場合も、「目的格」を説明する場合も、また「第一人稱」「第二人稱」なごの人稱を説明する場合にも、同じ形容詞を使へばよろしいので、それ等に就ては、全く何等の變化はありません。

形容詞と副詞とに特有の變化で、他の品詞には全くない變化が一つあります。それは「比較」(Comparison)の變化をいふが、即ちそれなのです。例へば

この鉛筆は長い。

This pencil is long.

これから考へたら

comparison [kəmpə'ri:ʒn カムペアリスヌ] 比較。pencil [pénsl ぺヌスル] 鉛筆。long [lɔŋ ɾヌ]。

「この鉛筆はあれより長い」をいふには

This pencil is *long* than that.

をいへばよいわけ (than that で「あれより」)ですが、英語では必ず

This pencil is *longer* than that.

を、形容詞の long を其儘使はないで、longer をいふ語尾に er を附けた形を使はねばならぬのです。また三本以上ある中で「この鉛筆が一番長い」をいふ場合には

This pencil is the *longest*.

を、語尾に est を附けた形を使はねばならぬのです。即ち形容詞と副詞には

[甲] 一つのものだけに就き言ふ時に使ふ形

[乙] 二つを比較して、甲は乙よりさういふことを述べる時に使ふ形

[丙] 三つまたは三つ以上を比較して、一つが一番さういふことを述べる時に使ふ形

を、三つの形があるのです。さうして

[甲] の形を 原級 (Positive Degree) の形

[乙] の形を 比較級 (Comparative Degree) の形

longer [lɔŋgə ろんが], longest [lɔŋgɪst ろんぎスト], degree [diɡri: ディグリー] 階級、度合。 positive [pɔzitiv ぽズィトィヴ] 普通の、もとの。 comparative [kəmpærətɪv カムべあラトィヴ] 比較の。

[丙] の形を 最上級 (Superlative Degree) の形を、名を付けてみるのです。

大多数の形容詞、副詞は、long, longer, longest のやうに、原級の語尾に er を附けた形を比較級、est を附けた形を最上級とします。たゞこれには綴字上注意せねばならぬ個條が三つあります。

(1) 原級の語尾 e の語は、er, est を附けては、e が二字並びますから、特に r, st のみを附けます。

原級	fine	large	wise
比較級	finer	larger	wiser
最上級	finest	largest	wisest

(2) 原級の語尾 y で、其前が父音字の語は、y を i に直して、er, est を附けます。

原級	early	easy	happy
比較級	earlier	easier	happier
最上級	ealiest	easiest	happiest

たゞし、語尾 y でも、其前が母音字の語、例へば、gay は、直ぐ er, est を附けて、gay, gayer, gayest とします。

(3) 原級の語尾に父音字が一字しかなく、其前の母音字

superlative [sjupə:lətɪv シュぱーラトィヴ] 最上の、最も優れたる。 easy [i:zi いーズィ] 容易な。 happy [hæpi へあピ] 幸福な。

が一字きりで、短く読む語は、語尾の父音字をもう一字よけいに付けてから、er, est を附けます。

原級	big	thin	hot
比較級	bigger	thinner	hotter
最上級	biggest	thinnest	hottest

[例題]

311. 次の語の比較級と最上級を作つて下さい。

tall	short	rich	poor	thick
fat	stout	soon	pure	sure
hot	cold	high	low	cheap
dear	deep	shallow	wide	narrow
idle	lucky	busy	dry	

[答]

原級	tall	short	rich
	taller	shorter	richer
	tallest	shortest	richest
原級	poor	thick	fat
	poorer	thicker	fatter
	poorest	thickest	fattest

big [big ビグ] 大きな。thin [θin シン] 薄い、やせた。hot [hot ホト] 暑い。tall [tɔ:l トール] 背が高い。short [ʃɔ:t ショート] 短い、背が低い。thick [θik シク] 厚い、茂つた。fat [fæt フェット] 肥つた。

rich や thick は発音から申せば ch で「チ」ck で「ク」で、語尾の父音は一つですが、こゝにいふのは、そんな発音上の問題ではありません、綴字上の問題で、綴字から言へば c と h と二字、c と k と二字あるのですから、上記の規則の第三には相当しません。たゞ er, est を附ければよいのです。tall は語尾に父音字が二字もあり、母音の a は長音ですから問題になりません。short もその通りです、綴字から見れば r と t と父音字が二字あるとも言はれますし、また or で一母音、父音は t 一字と見ても、or は長母音ですから、この個條にもあてはまりません。poor も語尾の父音字は r 一字ですが、其前に母音字が oo と二字あつて、しかも長母音です。たゞ fat は、語尾に父音字は t 一字で、其前の母音が短音の a [æ] ですから、上記の規則第三により、語尾の t を重ねた上、er, est を附けねばならぬのです。

原級	stout	soon	pure
	stouter	sooner	purier
	stoutest	soonest	purest
原級	sure	hot	cold
	surer	hotter	colder
	surest	hottest	coldest

stout [staut スタウト] 肥つた。soon [su:n スーン] 早く。pure [pjua ピュア] 純粋な。sure [ʃjua シュア] 確かな。cold [kould コールド] 寒き。

{	原級	high	low	cheap
	比較級	higher	lower	cheaper
	最上級	highest	lowest	cheapest

stout が二重母音、soon は長母音で問題になりません。pure, sure は語尾が e ですから、r, st だけを附けます。hot は第三の規則にあひますから、語尾の t を重ね、ばなりません。cold 以下は總て問題にならぬ語ばかりです。

{	原級	dear	deep	shallow
	比較級	dearer	deeper	shallower
	最上級	dearest	deepest	shallowest

{	原級	wide	narrow	idle
	比較級	wider	narrower	idler
	最上級	widest	narrowest	idlest

上記の語の中では、wide と idle が、第一の規則に適合しますから r, st だけを附ける外に、總て問題のない語ばかりです。

{	原級	lucky	busy	dry
	比較級	luckier	busier	drier
	最上級	luckiest	busiest	driest

high [hai はイ] 高き。low [lou ろウ] 低き。cheap [tʃi:p ちイプ] 廉價な。dear [diə ディア] 高價な、親愛な。deep [di:p ディイプ] 深き。shallow [ʃæləu シャロウ] 浅き。wide [waid わイド] 幅の廣き。narrow [nærəu なロウ] 狭き。idle [áidl あイドル] 怠惰な。lucky [lʌki ラキ] 幸運な。busy [bizi ビズイ] 忙しき。dry [drai ドライ] 乾いたる。

この三語は、規則第二に適合する語ですから、これも語尾の y を i に改めてから、er, est を附けるのです。

形容詞で三音節(發音する母音が三つある語)以上の語、副詞で二音節(發音する母音が二つある語)以上は、總て上記の er, est を附ける規則には依らないで、原級の形のまゝ、其前に more さいふ語を添へるものを比較級、most を添へたものを最上級とするのです。early (此語は ear-ly と二音節)のやうに、形容詞にも副詞にも使はれる語は、形容詞としての規則に従ひます。

たゞし形容詞でも、語尾が -ous, -ful, -ent, -ed なぎの接尾語から出来てゐる語は、特に二音節でも、more, most を添へたものを、比較級最上級の形とします。

ですから、上記の er, est を添へるのは、形容詞では一音節の語全部と、二音節の語の中、接尾語なしで出来てゐる語、副詞では一音節の語だけに限るので、それ以外の語は、總て more, most を添へるのであると覚えておいて下さい。

{	原級	fa-mous	beau-ti-ful
	比較級	more famous	more beautiful
	最上級	most famous	most beautiful

famous [féiməs フェイマス] 有名な。beautiful [bjú:tiful ビュイトイフル] 美しき。

{	原級	sel-dom	care-ful-ly
	比較級	more seldom	more carefully
	最上級	most seldom	most carefully

形容詞や副詞の中には、上記の *er, est* を附けるでもなく、また *more, most* を添へるでもなく、別の形を比較級、最上級の形とする語が若干あります。

{	原級	many	much	little	
	比較級	more	more	less	
	最上級	most	most	least	
{	原級	good	well	bad	ill
	比較級	better	better	worse	worse
	最上級	best	best	worst	worst

many (形容詞の「多数の」) も *much* (形容詞では「多量の」、副詞では「非常に」) も比較級、最上級は同じ *more, most* です。また *good* (形容詞の「よき」) も、*well* (形容詞では「達者な」、副詞では「よく」) も、同じく比較級は *better*、最上級は *best* です。そして *good* の反対の「悪しき」の意の *bad* も、*well* の反対の「病気の」の意の *ill* も、(上表には省きましたが、副詞の「悪しく」の意の *badly* も) 三つ

seldom [sɛldəm セルダム] めつたに……ぬ。 *carefully* [kɛəfʊli ひアフリ] 注意深く。 *more* [mɔ: もー], *most* [məʊst もウスト], *less* [les れス], *least* [li:st リースト], *better* [bétə メタ], *best* [best メスト], *worse* [wɔ:s わー], *worst* [wɔ:st わー]

ながら、比較級、最上級は、同じ *worse, worst* なのです。それから、*much* の反対の「少量の」、「少しく」の意の *little* の比較級、最上級は *less, least* なのです。たゞし *many* の反対の「少数の」の意の *few* だけは、規則通りに、*er, est* を附けた *fewer, fewest* を比較級、最上級の形とするのです、たゞし、これには *little* のと同様の *less, least* を使ふ人もあります。

斯んな次第で、原級では別の語でありながら、比較級、最上級では同じ語であつては、其區別がつかないやうなところがありはせぬか、心配されますが、ナアニ、そんな心配は全く御無用です。前後の関係から察したら、大抵の場合、まちがひなく、ごちらの原級から變化したものは、直ぐわかるのです。例へば

He has *more* pencils than I (have).

とあれば、この *more* は *many* の比較級、何故さいふに、普通名詞の *pencils* を修飾して「……より多数の」さいふのですから。一々例は挙げませんが、他の語だつて皆斯んな風で推察すればよいのです。

不規則の變化をする形容詞や副詞は、まだ外にもあります。

old (老いたる、古き) さいふ形容詞は、規則通りに、*older,*

older [óuldə オウルダ], *oldest* [óuldist オウルディスト]。

oldest とも變化し、また elder, eldest とも不規則の變化もするのです、たゞしごちらを何處に使つてもよいといふのではなく、

elder brother 兄 elder sister 姉

eldest son 長男 eldest daughter 長女

さいつた風に、brother, sister, son, daughter に就いて、younger brother (sister 弟、妹) youngest son (daughter 一番末の息子、息女)の反對を示す場合にだけ elder, eldest の方を使ひ、その他には、いつでも older, oldest の方を使ふきまりになつてゐるのです。

My *elder* brother is three years *older* than your *elder* sister.

僕の兄は君の姉より三つ年が上です。

また late といふ形容詞も、規則通りに later, latest (原級の語尾が e ですから、r, st だけを附ける)と、不規則に latter, last といふのと、二つの比較級、最上級の形があります。併しこれも、earlier, earliest の反對に、「時」の「一層遅い」「一番遅い」には、later, latest の方を使つて、former, foremost の反對に、「位置」「順序」の「一層後の」

elder [éldə エルダ] eldest [éldist エルドイスト], late [leɪt レイト], later [léɪtə レイタ], latest [léɪtɪst レイトイスト], latter [lætə ラタ], last [lɑ:st ラスタ].

「一番後の」の意には、latter, last の方を使ふきまりです。

Have you heard the *latest* news?

君は最近の通知を聞いたか(一番遅くに來た報知)

He was the *last* man that came.

彼が來た(人々の中の)最後(に來た)の人でした。(一番後に來た人)。

far (遠方の)といふ形容詞にも、二種の比較級と最上級の形があります。一は farther, farthest で、今一つは further, furthest で、双方よく似てゐますが、a の方は、「一層遠方の」「一番遠方の」と、距離の遠い意味に使ひ、u の方は、「其上の」「一番奥まで」の意で、これの原級は far でなく、副詞の forth だとも見てもよろしいのです。

Asakusa is *farther* than Ueno.

浅草は上野より遠い。

I have no *further* use for this book.

私は此本はこれ以上の入用はない。

尚、比較級、最上級の用法に就き、二三お話しておくことがあります。

最上級の形容詞には必ず定冠詞の the を附けます。「一

news [nju:z ニューズ] 報知, far [fɑ: ファー], farther [fɑ:ðə ファーザ], further [fɜ:ðə ファーザ], furthest [fɜ:ðɪst ファーザイスト], farthest [fɑ:ðɪst ファーザイスト].

番何う」こいふものは一つしかないにきまつてゐますから。たゞし、副詞の最上級には the を附けても、附けなくても、ごちらでもよろしいのです。

He is *the tallest* of us all.

彼は私等皆の中で一番背が高い。

He ran (*the*) *fastest* among us three.

彼は私等三人の中で一番速く走つた。

tallest は形容詞ですから、必ず the が入用。fastest は副詞ですから、the は附けても附けなくてもよいのです。

「……の中」の意をあらはすには、of, among ごちらを使つてもよろしい。

比較級の形容詞は、次に of the two (二つの中で) こいふ句が附く時は the 入用。than……の句が附く時は、the を附けてはいけません。than……は「……より」の意です。また、ごちらも附かぬ時は、the は附けるも、附けないも随意です。比較級の副詞は、いつでも the は附けても、附けなくても、ごちらでもよろしいのです。

He is *the taller* of us two.

彼は私共二人の中では背の高い方です。

He is *taller* than I.

彼は私より背が高い。

among [ə'mɒŋ アマン].

Which is (the) taller, you or he?

君と彼男と、ごちらが背が高いですか。

斯んな風に、「A と B と、ごちらがさうか」と問ふには、いつでも

Which is (the) 比較級, A or B?

こいふので、than…… も of the two も附かぬ場合ですから、比較級の形容詞の前には、the はあつても、なくても、ごちらでもよろしいのです。

副詞の場合には

He ran (*the*) *faster* of us two.

彼は私等二人の中で速く走つた方です。

He ran *faster* than I.

彼は私より速く走つた。

Which ran faster, you or he?

君と彼男と、ごちらが速く走つたか。

三つ以上ある中、「どれが一番さうか」と問ふには

Which is the 最上級, A, B, or C?

こいつた風にします。

Which is *the tallest*, you, he, or I?

君と、彼男と、私と、だれが一番背が高いか。

Which do you like *best*, an apple, a peach, or an

orange?

君は林檎を、桃を、蜜柑を、どれが一番好きか。

Which do you like *better*, an apple or an orange?

君は林檎を蜜柑を、どちらが好きか。

こんな風に、「一番好き」は like best 「……より好き」は like better といひますが、この better, best は、副詞の well の比較級、最上級です。

「一番」を明言することは出来ぬが、「一番」をいふべきものが若干あるその中の一つ、即ち「第一流の」をいふべき意味をあらはすには

Japan is *one of the strongest countries* in the world.

日本は世界の最強國中の一つ(第一流の強國)です。

He is *one of the most diligent boys* of our classmates.

彼は私等同級生中の一番勉強な生徒達の一人(第一流の勉強家)です。

若し、それが二つまたは二つ以上に就き言ふ場合には、one は使はれませんから、one of の代わりに among を使つて

Tokyo and Osaka are *among the largest cities* in the world.

strongest [strɔŋgɪst ストロングスト] 一番強き。 countries [kʌntriz カストリズ] 國 (country の複数形)。 diligent [dɪlɪdʒənt ディリヂャント] 勤勉なる。 classmate [klɑ:smeɪt クラスメイト] 同級生。

東京及び大阪は世界の最大都市中のもの(第一流の大都市)です。

You and he are *among the most diligent boys* of our classmates.

君や彼は僕等の同級生中で最も勉強する生徒中のもの(第一流の勉強家)だ。

さいつた風に言ひます。 どちらにしても

one of the 最上級 }
among the 最上級 } の次に置く名詞は、複数形でなく

てはならぬに注意して下さい。

最上級を使はないで、比較級を使つて、最上級と同じ意味をあらはす方法があります。 例へば

He is *the tallest boy* of us all.

さいふことを

He is *taller than any other boy* of us all.

彼は私等皆の中の他のどの少年よりも背が高い。

Tokyo is *the largest city* in Japan.

さいふことを

Tokyo is *larger than any other city* in Japan.

東京は日本中の他のどんな都市よりも大きい。

結局、最上級と同じ意味になります。 たゞし than any

any [əni エニ] どの。 other [əðə あず] 他の。

other の次へは、boy, city といった風に、必ず単数名詞を置くのです。誤つて、boys, cities を複数形を使はないやうに注意して下さい。

上記の外に、甲、乙二つを比較して、「甲は乙と同じにぎう」¹といった風の「同程度」をあらはす比較のしかたがあります。それは

He is *as tall as* I (am).

彼は私と同じほぎの脊の高さです。

He can run *as fast as* I (can).

彼は私と同じほぎの速さに走るここができます。

といった風に、二つの *as* の間に、原級の形容詞、または副詞をはさむのです。否定の場合には

He is not *so tall as* I (am).

彼は私ほぎに脊が高くない。

He cannot run *so fast as* I (can).

彼は私ほぎに速く走れない。

といった風に、前の *as* の代りに *so* を使つて、*not so~as* とするのは、そして *as~as* でも、*not so~as* でも、間にはさまる~は、必ず原級の形の形容詞や副詞であることに注意して下さい。

形容詞、副詞の「比較」の變化に関するお話は、これだ

けで止めます。尙、次の例題に就き、よく練習して下さい。

[例題]

次の文中に誤あらば、訂正して下さい。

312. Of London and Paris, London is wealthier.

313. China has a larger population than any country.

314. I like this better than anything.

315. He is one of the best scholar in Japan.

316. Which is more clever, John or James?

317. John is the cleverer than James.

318. John is the cleverer of the two.

319. His older brother is elder than my older sister by one year.

320. This is as twice heavier as that.

312. London [lʌndən ㄌㄨㄥㄉㄨㄢ]. Paris [pæris べありス]. wealthier [weɪlθiə ㄨㄟㄌㄒㄒㄒㄒ] (より) 富裕な。313. population [pɒpjuleɪʃən ㄆㄒㄑㄒㄒㄒㄒ] ポピュレイション 人口。314. anything [ɛniθɪŋ ㄟㄢㄒㄒㄒㄒ] どのやうな物。315. scholar [skɔlə ㄌㄒㄒㄒㄒㄒ] 學者、學生。320. heavier [heɪviə へヴィア] (より) 重い。

[答]

312. 本問は London is wealthier of London and Paris. (倫敦とパリの中では、倫敦の方が富裕だ)とあるも同じで of the two の場合の規則を適用し、比較級の形容詞 wealthier の前に the を入れねばならぬのです。wealthier は wealthy (富裕な) の比較級です。
313. any country は「どんな国」をいふことで、China も勿論一つですから、China より China が……をいふことになつて變です。依つて any other country と、other を入れねばならぬのです。それで「支那は他のどの国よりも多数の人口を有す」といふことになつて、結局 China has the largest population of all countries. (支那はあらゆる国の中で一番多数の人口を有す)と、最上級を使ふと同意をあらはすことになります。
314. I like this better than anything else. と入れると「私は他のどれよりもこれが好き」といふ意になります。else は other と同じで、anything, something, nothing, what などには、other を使はな

else [els エルス] 他の。

- いで、この else を使ふがきまりになつてゐるので
315. one of の次の最上級の次には必ず複数名詞を使はねばなりませんから、本問は He is one of the best scholars in Japan. として、「彼は日本で一番立派な學者の一人(第一流の學者)」をいふ意をあらはすのです。
316. clever は二音節ですが、more, most を添えないで、er, est を附けた形を、比較級、最上級とする語です。従つて本問は Which is (the) cleverer, John or James? (ジョンとジェイムズと、どちらが伶俐ですか) とするのです。
317. than……の添ふ比較級ですから、the を附けてはいけません。John is cleverer than James. (ジョンはジェイムズより伶俐です)と the を削らんければいけません。
318. of the two の添ふ比較級ですから the は入用、従つて本問には誤はありません。「その二人の中ではジョンの方が伶俐です」
319. older と elder との使ひ方が、あべこべになつてゐます。His elder brother is older than my elder

cleverer [klévarə クレヴァラ]。cleverest [klévarist クレヴァリスト]。

sister by one year. (彼の兄は私の姉より一つ年が上です) とするのです。

尙本文は最後の one year を比較級の前に置いて、His elder brother is *one year* older than my elder sister. としてもよろしい、さうするに by は不用です。

斯んな風に、比較級の場合「幾つだけさう」と、其差をあらはす語句は、比較級の前に置いても、また by を使つて最後に置いてもどちらでもよいのです。別の例をあけますと、「これはあれより一呎長い」は

This is *a foot* longer than that.

This is longer than that *by a foot*.

どちらでもよろしいのです。

320. This is *twice* as heavy as that. (これはあれの二倍の重さです) と訂正します。as~as や not so~as の ~ には、必ず原級の形を使はねばなりませんから、heavier のやうな比較級はいけません。次に

「これとあれとは同じ重さです」は

This is *as* heavy *as* that.

ですが、「これはあれの二倍の重さ」「半分の重さ」など、差異をいふには、その差異をあらはす語句を、as~as の前に置くのです。twice は「二倍の」の意です。「半分の」でしたら

This is *half* as heavy as that.

「三倍の」でしたら three times 「十倍の」 ten times といつた風に、「三倍」以上は times といふ語を使ひます。これが「倍」の意をあらはすのです。

尙、次に形容詞と副詞との用法に就き、少し説明して置きませう。これも既述の事項を取纏めて書くだけのことで、詳しく申す必要はあるまいと信じます。

形容詞は、普通次の三つの役目に使はれます。

(1) 修飾語

This is a *useful* book.

(2) 補足語

This book is *useful*.

I think this book *useful*.

(3) 連接語 これは関係代名詞や疑問代名詞の次に名詞が附いて、形容詞の役目をする場合をいふのです。

This is *what* book I told you.

これが私が君に話した本です (関係形容詞)

Tell me *what* book you want.

どんな本がお入用か私に話しなさい (疑問形容詞)

(1) の修飾語として使はれる形容詞は、修飾される名詞の前に附くがきまりですが、形容句や、形容節は反対に、修

飾される名詞の次に附くことに注意して下さい。

This is a *useful* book. (形容詞)

This is a book *of use*. (形容句)

This is a book *that I think useful*. (形容節)

意味は三つとも同じですが、句や節は、詞に反対に、名詞の次に附いてゐます。

(2) 代名詞に附く形容詞は、必ず補足語の役目をして、決して修飾語たることはありません。「必要なるこれ」Useful this. なぞいふことは決してなく、必ず「これは必要だ」This is useful. させなければなりません。

(3) 主語の補足語は、This is useful. のやうに、動詞を距て、説明する主語の次に置きますが、目的語の補足語は I think this useful. のやうに、説明する目的語の直ぐ次に、並べて置くに注意して下さい。

副詞の用法は、次の三つです。

(1) 修飾語

I ran *fast*. (動詞の修飾語)

I am *very* tall. (形容詞の修飾語)

I ran *very* fast. (副詞の修飾語)

I sat *just* at the foot of the tree. (前置詞の修飾語)

私は木の丁度下に着座した。

ever [éva えヴァ] ずっと。 since [sins サィヌス].....より以來。

He has been ill *ever since* he came. (接續詞の修飾語)

彼は來てからずっと病氣です。

Perhaps he will not come. (全文の修飾語)。

多分彼は來ますまい。

上文中の斜體の語は副詞で、黒字の語を修飾してゐるのです。尙 even さいふ副詞は、特に名詞や代名詞を修飾する役目をもします。

Even a child can do it.

子供ですらそれは出來ます。

Even this was not enough.

これですら充分ではありませんでした。

(2) 補足語

He is *here*.

How are you?

He is *in*. (在宅です)。

He is *out*. (不在です)。

(3) 連接語 これは關係副詞や疑問副詞のみのする役目です。

even [évn いヴヌ].....ですら、.....できへも。 enough [ináf イナフ] 充分な、不足なき。

This is the place *where* he was born. (関係副詞)

Tell me *where* he was born. (疑問副詞)

語尾が *ly* の語は、*early* など二三形容詞に使はれるものもありますが、其他は全部副詞です。また語尾が *ful, less* などの語は全部形容詞です。斯んなこどもついでに覚えておくまよろしい。

[例題]

次の文中の形容詞、副詞を指摘し、その用法を答へて下さい。

321. He was riding on a white horse.
 322. The horse was black.
 323. She was made happy.
 324. He made his mother happy.
 325. I don't know what book he wants.
 326. I slept soundly all night.
 327. He is very ill.
 328. He arrived long before.
 329. It was done entirely through his effort.
 330. Unfortunately he fell ill.

[答]

321. *white* が形容詞で、名詞 *horse* の修飾語。
 322. *black* が形容詞で、主語の *horse* を説明する補足語。
 323. *happy* が形容詞で、主語の *she* を説明する補足語。
 324. *happy* が形容詞で、目的語の *mother* を説明する補足語。
 325. *what* が形容詞で、接続語。
 326. *soundly* が形容詞で、動詞の *slept* の修飾語。
all が形容詞で、名詞 *night* の修飾語。
 327. *ill* が形容詞で、主語 *he* を説明する補足語。
very が副詞で、形容詞の *ill* の修飾語。
 328. *before* が副詞で、動詞 *arrived* の修飾語。
long も副詞で、副詞 *before* の修飾語。
 329. *entirely* が副詞で、前置詞 *through* の修飾語。
 330. *unfortunately* が副詞で、全文の修飾語。
ill が形容詞で、主語 *he* を説明する補足語。

326. *soundly* [sáundli さウヌドリ] ぐつすりど。 329. *entirely* [intáiali イヌタイアリ] 全く。 *through* [θru: スル]を通して.....のため。
effort [éfat エファット] 盡力。 330. *unfortunately* [anfó:tfnitli アヌフオト
 ヲネトリ] 不運にも。 *fell* [fel フェル] 陥つた、かゝつた。

321. 彼は白馬に乗つてゐた。 322. 馬は黒であつた。 323. 彼女は幸福にされた。 324. 彼は彼の母を幸福にした。 325. 私は彼はどの本が入用なのか知らない。 326. 私は終夜ぐつすり眠つた。 327. 彼は大層わるい(病氣だ)。 328. 彼はずつと(長く)前に到着した。 329. それは全く彼の骨折で(のために)できた(なされた)。 330. 不運にも彼は病氣にかゝつた。

16.

動詞の變化

動詞に、自動詞、他動詞の區別があり、完全動詞、不全動詞の區別あることは、既に第 20 頁に述べましたから、これからは直ぐに、動詞の變化に就ての説明に進まうと思ひます。

動詞の變化には、(1) 活用 (2) 數及び人稱 (3) 時 (4) 態 (5) 法を五種あります。

(1) 活用 (Conjugation)

總ての動詞には、次の五つの形があつて、それぞれの形に動詞の變ることを「活用」といふのです。

- (1) 根形 (Root Form)
- (2) 現在形 (Present Form)
- (3) 過去形 (Past Form)
- (4) 現在分詞形 (Present Participle)
- (5) 過去分詞形 (Past Participle)

二三の動詞に就き、この五つの形をお示しいたしませう。

root [ru:t る | ト] 根, form [fɔ:m フお | ム] 形, present [prézent プレズント] 現在(の), past [pa:st ぱ | スト] 過去(の), participle [pá:tisipl ぱ | トイスイブル] 分詞。

根形	look	like	do	have
現在形	look(s)	like(s)	do(es)	have (has)
過去形	looked	liked	did	had
現在分詞形	looking	liking	doing	having
過去分詞形	looked	liked	done	had

根形は、「もこの形」で、他の形の根源となるものです。これに to を附けた to look, to like のやうなのを、不定形 (また不定詞)といひます。

現在形は、根形と同じ形ですが、次の項に説明します通りに、第三人稱單數の主語に伴ふ時は、語尾に s または es を附け、looks, does のやうな形になります。

過去形は、根形の語尾に ed を附けた形をそれとする動詞、looked, liked のやうなのを、全く別の形をそれとする動詞、did, had のやうなのを二種あります。

現在分詞形は、總ての動詞を通じて、皆根形の語尾に ing を附けた形で、過去形のやうに、二種の別はありません。

過去分詞形は、過去形と同じに二種あります。一は、過去形と全く同じく、根形の語尾に ed を附けた形で、もう一は根形とは全く別の形ですが、其中には had のやうに、

looked [lukt るクト], looking [lúkiŋ るキン], liked [laikt らイクト], liking [laikiŋ らイキン], done [dvn ダヌ], doing [dú:iŋ ぞう | イン], having [háviŋ へあヴィン],

過去形と同じものもあり、また done のやうに、他の形は全く別の形もあります。

つまり、根形と現在形とは、名こそちがへ、形は全く同じもの(時に前述の通り、現在形は其語尾に s か es かを付ける)です。さうして其語尾に ing を附けた形が、いつでも現在分詞なのです。

この事は、總ての動詞が皆さうで、或る動詞に限り例外といふことはありませんが、唯過去形と過去分詞とは、動詞によつて、その形が一定しないのです。

[甲] 大多数の動詞は、根形の語尾に ed を附けた形を、過去形とも、過去分詞形ともするのです。ですから、此種の動詞は、過去形、過去分詞形、名は二つに分れていますが、其形はごちらも、全く同じものなのです。

[乙] 上記の [甲] のやうな形でなく、或は全く別の形を、或はまた根形其まゝを、過去形や過去分詞形とする動詞、これは其数は、上記の [甲] に比較すれば遙かに少いですが、日常使ふ動詞には、却て此方に屬するものが多いのです。

文法では、[甲] の動詞を、規則動詞 (Regular Verb) [乙] の動詞を 不規則動詞 (Irregular Verb) といつて區別してゐます。

regular [ˈrɛɡjʊlə ねギョラ] 規則的の。 irregular [ˌɪrɛɡjʊlə イレギョラ] 不規則的の。

根形の語尾に ing や ed を附ける場合、綴字上に注意すべきところが次の通りあります、第 213 頁以下に述べた形容詞や副詞の比較の變化の場合と對照して、よく覚えて貰ひたいと思ひます。

[第一] 語尾 e の語は、e を削つて ing や ed を附ける。ですから ed を附ける場合は、結局 d だけを附けると言つても同じことになります。

like	hope	agree
liked	hoped	agreed
liking	hoping	agreeing*

[第二] 語尾に父音字が一字で、其前の母音字も一字で、それが短く讀む場合には、語尾の父音字を、もう一字餘計に付けてから、ing や ed を附けます。

stop	fan	omit
stopped	fanned	omitted
stopping	fanning	omitting

たゞし

* agree のやうな語尾 ee の語は ed は d だけを附けますが、ing は e を削らないで、其儘附けます。

hope [həʊp ほウプ] 望む。 agree [əˈɡriː アグリ] 一致す。 stop [stɒp ストプ] 止まる。 fan [fæn フェアヌ] 扇であふぐ。 omit [əˈmɪt オミト] 省略す。 stopped, stopping など、折角父音字を重ねても、それは綴字の上だけ入用なので、發音には不用、即ち其中の一字は消字です。 [stɒpt] [stɒpɪŋ] と讀むのです。これは此語に限らず、總て同じ父音字が二字並んでゐる時は、其中の一字は消字であるがきまりです。

visit	offer
visited	offered
visiting	offering

のやうに、アクセントが最終の音節にない二音節以上の語は、語尾の父音字を重ねるに及びません。

[第三] 語尾 y で、其前が父音字の語は、y を i に改めてから ed を附けます。たゞし ing を附ける場合には、其必要はありません。y のまゝ直ぐ附けるのです。

study	try	cry
studied	tried	cried
studying	trying	crying

語尾 y でも、前が母音の語は、y のまゝ ed を附けます。

play	stay
played	stayed
playing	staying

[第四] 語尾 ie の語に ing を附けるには、ie を y に直してから附けます。丁度上の第三の反対です。たゞし ed の場合には、この規則は使はれません。そのまゝ(語尾が e ですから d だけを)附けます。

visit [vɪzɪt ヴィズィット] 訪問す。offer [ɔfə オファ] 捧げる。study [stʌdi スタディ] 研究す。try [traɪ トライ] 試みる。cry [krai クライ] 泣き叫ぶ。play [pleɪ プレイ] 遊ぶ。stay [steɪ ステイ] 滞在す。

die	lie
died	lied*
dying	lying

不規則動詞の中には

do	did	done
----	-----	------

のやうに、根形と過去形と過去分詞形と、三つが皆別の形の語もあり、また

have	had	had
------	-----	-----

のやうに、過去形と過去分詞形とは、同じであるもの、

come	came	come
------	------	------

のやうに、根形と過去分詞形が同じであるもの、

cut	cut	cut
-----	-----	-----

のやうに、三つながら同形であるものなごあります。大抵の辭書には、卷末附録なごに「不規則動詞活用表(また變化表)」として、全部の不規則動詞が出てゐますから、そんなものに就いて、一語一語覚えねばなりません。

「例題」

331. 次の動詞の活用を答へて下さい。

*lie は「嘘を言ふ」「横はる」といふ二つ別の意味があつて、前者の意には、上記の通り過去形は lied ですが、後者の意の時は不規則動詞で、過去形は lay です。die [dai ダイ] 死す。lie [lai ライ]。

call	jump	end	heat
live	love	beg	stoop
differ	limit	permit	prefer
spy	dry	carry	play
take	speak	tear	eat
get	sing	give	bid
know	show	go	be
say	stand	make	tell
meet	keep	hear	sit
think	bring	catch	send
smell	hide	find	dig
strike	lose	shoot	wake
hold	run	put	hit
hurt	set	shut	let

call [kɔ:l コール] 呼ぶ。jump [dʒʌmp じゃムプ] 跳ぶ。end [end エンド] 終る。heat [hi:t ヒート] 熱す。live [liv リヴ] 住む。love [lav ラヴ] 愛す。beg [beg ベグ] 懇願す。stoop [stu:p ストゥップ] しゃがむ。differ [difa ディファ] 相違す。limit [límit リミット] 限る。permit [pə'mít パミット] 許す。prefer [prɪfə: プリフア] 選ぶ。spy [spai スバイ] さがし出す。dry [drai ドライ] 乾す。carry [káeri ケアリ] 運ぶ。speak [spi:k スビク] 話す。tear [təə テア] 引裂く(「涙」の意の時は、同綴字で [tiə ティア] と讀む)。bid [bid ビッド] 命ず。show [ʃou ショウ] 示す。meet [mi:t ミット] 逢ふ。keep [ki:p キップ] 保つ。hear [hiə ヒア] 聞く。think [θɪŋk レン

[答]

根形	現在形	過去形	現在分詞形	過去分詞形
call	call(s)	called	calling	called
jump	jump(s)	jumped	jumping	jumped
end	end(s)	ended	ending	ended
heat	heat(s)	heated	heating	heated
live	live(s)	lived	living	lived
love	love(s)	loved	loving	loved
beg	beg(s)	begged	begging	begged
stoop	stoop(s)	stooped	stooping	stooped
differ	differ(s)	differed	differing	differed
limit	limit(s)	limited	limiting	limited
permit	permit(s)	permitted	permitting	permitted
prefer	prefer(s)	preferred	preferring	preferred
spy	spy(spies)	spied	spying	spied
dry	dry(dries)	dried	drying	dried
carry	carry (carries)	carried	carrying	carried
play	play(s)	played	playing	played

ク] 考へる。bring [brɪŋ ブリン] 持來る。catch [kætʃ ケアチ] 捕へる。send [send センド] 送る。smell [smel スメル] 嗅ぐ。hide [haɪd はイド] 隠れる。find [faɪnd ファイノド] 見附け出す。dig [dɪg ディグ] 掘る。strike [straɪk ストライク] 打つ。lose [lu:z ルーズ] 失ふ。shoot [ʃut シュット] 射る。wake [weɪk ウェイク] 眼をさます。hold [hould ホールド] 握る。put [put フット] 置く。hit [hit ヒット] 打つ。hurt [hɜ:t はット] 傷く。set [set セット] 据えつける。shut [ʃʌt シャット] 閉ぢる。let [let レット] 許す、……して……せしむ。

live, love のやうな語尾 e の語は、e を削つて、ed や ing を付けねばなりません。また beg のやうな語尾に父音字一字で、其前が母音字一字で、短母音の語は、語尾の g を重ねてから、ed, ing を付けねばなりません。併し stoop は、語尾の父音字は p 一字ですが、其前に母音字が oo の二文字あり、併かも [u:] の長く讀みますから、p を重ねる必要はありません。直ぐ ed なり、ing を付ければよいのです。これによく似た stop (stopped, stopping) の混線しないやうにして下さい。

differ, limit は beg と同じで、最後に父音字は一字ですが、これ等は二音節の語で、dif-fer, lim-it の、アクセントが後の音節にありませんから、最後の父音字を重ねるに及ばないのです。たゞし per-mit, pre-fér は、二音節でも、アクセントは後の音節にありますから、最後の父音字 t, r を重ねて、ed なり ing を付けるのです。

spy, dry, carry は、語尾が y で、其前が父音字ですから、y を i に改めてから ed を付けるのです。現在形も同様に y を i に改めて es を付ける、これは city が cities, lady が ladies のいつた風に、名詞の複數をつくる場合と同じです。總て動詞の現在形に、語尾に s か es かを付ける規則は、名詞の複數をつくる規則と全く同じです。語尾 s, sh, ch, x, z には es, o の y には、其前が父音なら (y

は i に改めて) es, f か fe は v に改めて es を付け、其他は總て s だけを付けるのです。

play は語尾が y でも、其前が母音ですから、そのまゝ ed なり ing を付ければよろしいのです。

以上は總て規則動詞ですが、これから以下は全部不規則動詞です。不規則動詞は、前にも述べました通りに、一語一語に就て、其活用を覚えるより外に方法はありません。

根形	現在形	過去形	現在分詞形	過去分詞形
take	take(s)	took	taking	taken
speak	speak(s)	spoke	speaking	spoken
tear	tear(s)	tore	tearing	torn
eat	eat(s)	ate	eating	eaten
get	get(s)	got	getting	got
sing	sing(s)	sang	singing	sung
give	give(s)	gave	giving	given
bid	bid(s)	bade	bidding	bidden
know	know(s)	knew	knowing	known
show	show(s)	showed	showing	shown
go	go(es)	went	going	gone
be	is, am, are	was, were	being	been
say	say(s)	said	saying	said
stand	stand(s)	stood	standing	stood

spoken [spóukn スボウクス], torn [tɔ:n トン], ate [et エト], eaten [i:tn いトス], given [gívn ギヴス], bade [bæd ベアド], bidden [bídn ビドス], knew [nju: ニュ], known [nəʊn ノウ], shown [ʃəʊn ショウ], gone [gɔ:n ゴン], been [bi:n ビン], said [sed セド], stood [stʊd ストゥド]

make	make(s)	made	making	made
tell	tell(s)	told	telling	told
meet	meet(s)	met	meeting	met
keep	keep(s)	kept	keeping	kept
hear	hear(s)	heard	hearing	heard
sit	sit(s)	sat	sitting	sat
think	think(s)	thought	thinking	thought
bring	bring(s)	brought	bringing	brought
catch	catch(es)	caught	catching	caught
send	send(s)	sent	sending	sent
smell	smell(s)	smelt	smelling	smelt
hide	hide(s)	hid	hiding	hidden
find	find(s)	found	finding	found
dig	dig(s)	dug	digging	dug
strike	strike(s)	struck	striking	struck stricken
lose	lose(s)	lost	losing	lost
shoot	shoot(s)	shot	shooting	shot
wake	wake(s)	woke waked	waking	woke waked
hold	hold(s)	held	holding	held
run	run(s)	ran	running	run
put	put(s)	put	putting	put
hit	hit(s)	hit	hitting	hit
hurt	hurt(s)	hurt	hurting	hurt
set	set(s)	set	setting	set
shut	shut(s)	shut	shutting	shut
let	let(s)	let	letting	let

heard [hə:d は | ド], hearing [híəriŋ ひアリス], thought [θɔ:t そ | ト].

一語一語に就ての説明を略しますから、よく上記の答を見て下さい。be さいふ動詞は、他の動詞ちちがつて、現在形は be のまゝでなく is, am, are, です。また put 以下最終の六語は、活用のない(形の變らぬ)動詞です。

(2) 數及び人稱 (Number and Person)

第三人稱單數の代名詞が主語である時には、これに伴ふ動詞の現在形は、必ず其語尾に s が es を附けた形を使はねばなりません。これを動詞の「數及び人稱」の變化さいふのです。

I go. You go. He (she, it) goes.

We go. You go. They go.

たゞし、これは現在形の場合だけであるさいふことを確かり覚えて下さい。現在形以外の動詞は、主語が何であらうも、一切同じ形を用ひます。例へば過去形は

I went. You went. He (she, it) went.

We went. You went. They went.

總て同じ went を使つて、一切變化はありません。

be さいふ動詞は、前項にも申しました通りに、其現在形

brought [brɔ:t ブロ | ト], caught [kɔ:t こ | ト], hidden [hídn ひドヌ],
found [faund ファウヌド], dug [dag ダグ], lost [lɔ:st ろウスト], losing
[lúziŋ る | ズイン], shot [ʃɔt ショト].

は *is* と *am* と *are* と三つあり、過去形は *was* と *were* と二つあるのです。さうして、主語により、それぞれ使ふ形がちがふのです。

第一人稱単數 (I) には *am* と *was*

第二人稱単數 (you) と、總ての複數には *are* と *were*

第三人稱単數 (he, she, it 等) には、*is* と *was*

ですから、現在形は

I am. You are. He (she, it) is.

We are. You are. They are.

過去形は

I was. You were. He (she, it) was.

We were. You were. They were.

と使用されるのです。

have といふ動詞は、第三人稱単數の主語には、*have* の語尾に *s* を附けた *haves* でなく、*has* といふ形を使つて

I have. You have. He (she, it) has.

We have. You have. They have.

とあります。たゞし過去形は一切 *had* で

I had. You had. He (she, it) had.

We had. You had. They had.

と、主語が何でも一切同じ形の *had* を使ふことは、*be* 以外の總ての動詞と同じことです。

名詞は前にも述べたことがあります通りに、通例は第三人稱に使はれるのですから、その單數が主語の場合には、それに伴ふ現在形の動詞は語尾に *s* か *es* の附いた形 (*be* は *is*, *have* は *has*) を使はねばなりません。複數なら勿論 *s* も *es* も附けない形 (*be* は *are*, *have* は *have*) を使ひます。

The boy goes. The girl is.

Frank has.

The boys go, The girls are.

Frank and Ned have.

この最後の例のやうに、二つまたは二つ以上の單數名詞が、*and* なぎでつながれて、其全部が主語となつてゐる場合には、それで複數の意になりますから、動詞は複數に使ふ動詞 (語尾に *s* も *es* も附けぬ形、*be* は *are*, *have* は *have*) を使はねばならぬことは勿論です。たゞし、*or* (または) のやうなつながりこばでつながれる時は、「どちらか一方」の意で、單數ですから、これに伴ふ動詞は勿論語尾に *s* か *es* の附いた形 (*be* は *is*, *have* は *has*) を使はねばなりません。

Frank or Ned goes.

You or I am.

He or she has.

[例題]

次の文中、日本語で書いてある動詞を英語に直して下さい。

332. Both Japan and China (ある) in the East.
 333. He and I (です) great friends.
 334. Either James or John (ゐた) there.
 335. Neither you nor I (です) to go.
 336. I, as well as he, (持つ) a dictionary.
 337. Not only he but also I (持つ) a dictionary.
 338. I, not he, (です) to have it.
 339. I (愛す) him, and he (愛す) me.
 340. He and I (愛す) each other.

[答]

332. Both Japan and China (日本も支那も両方ながら) で、複数になりますから *are* です。
 333. He and I (彼と私) も同様に *are* です。

332. 日本も支那も両方ながら東洋にある。333. 彼と私とは親友です。
 334. ジェイムズかジョンかどちらか一人が其處にゐた。335. 君も私もどちらも行かない筈です。336. 彼と同様に私も辞書を持つてゐる。337. 彼ばかりでなく、併し私もまた辞書を持つてゐる。338. 彼でなくて、私がそれを持つ筈です。339. 私は彼を愛し、彼は私を愛します。340. 彼と私とは互に愛しあひます。

334. Either James or John (ジェイムズかジョンか、どちらか一人) は単数ですから *is* です。
 335. Neither you nor I (君も私も、どちらも……ぬ) は、一人のここをいふのですから、単数です。単数の場合、I には *am*, you には *are* ですが、斯んな場合には、後にある方の主語、此文では I に附く動詞を使ふのがきまりです。従つて *am* を使ふのです。たゞし
 Neither you nor he……こあつたら、後の方、即ち he に使ふ *is* を使はねばなりません。
 336. I, as well as he, (彼は勿論私は) こ I のここを主としていふのですから、動詞は I に附くもの、即ち *have* です。たゞし、He, as well as I, ……でしたら、he に使ふ *has* ですし、また You, as well as I, ……でしたら、you に使ふ *have* でなくてはなりません。いつでも、A, as well as B, …… こ *as well as* が使つてある時は、A の方に使ふ動詞を使ふのです。
 337. Not only he but also I (彼ばかりでなく、私も亦) は、意味は *as well as* と同じですが、これは、後にある方に附く動詞を使ふのです。即ちこゝでは I に使ふ *have* です。たゞし

Not only I but also he..... でしたら、he に使ふ has でなくてはなりません。

338. I, not he (彼でなく私は) こ、I のここをいふのですから、I に伴ふ動詞、即ち am でなくてはなりません。たゞし

You, not he, でしたら、You に使ふ are を
He, not I, でしたら、he に使ふ is を使ふのです

つまり

A, as well as B,
Not only B but also A } は、總て A に使ふ動詞。
A, not B,

こ、よく覚えておいて下さい。

339. I love him, and he loves me. こ、主語 I には根形のみ、の現在形を、he には其語尾に s を附けた形を使ひます。たゞし過去のここをいふのでしたら

I loved him, and he loved me.

こ、ごちらにも同じ形でよろしいことは、申すまでもありません。

340. He and I love each other. he こ I こで複数ですから、語尾に s を附けない、根形のみ、の現在形を使ひます。

(3) 時 (Tense)

一切の動詞は、また「時」の變化をいふことをやります。これは中々六づかしいですから、確かり讀んで、確かり覚えて下さらなくてはなりません。

「時」は、次の六種あります。

- (1) 現在 (Present)
- (2) 過去 (Past)
- (3) 未来 (Future)
- (4) 現在完了 (Present Perfect)
- (5) 過去完了 (Past Perfect)
- (6) 未来完了 (Future Perfect)

(1) 現在 には、現在形を使ひます。look(s), like(s), do(es), have (has) の類。

(2) 過去 には、過去形を使ひます。looked, liked, did, had の類。

(3) 未来 には、shall または will をいふ助動詞を、根形を使ひます。 shall } look, shall } like, shall } do,
will } will } have の類。

根形です、現在形ではありません。従つて主語が第

future [fju:tʃə フューチャー] 未来。perfect [pɜ:fɪkt ぱーふィクト] 完全の、完了の。

三人称単数でも、he will looks だの、she shall does なぎ、してはいけません。look, do を使ふのです。

- (4) 現在完了 には、have (主語が第三人称単数には has) を助動詞に使ひ、それと過去分詞形とを並べます。
- have } looked, have } liked, have } done, have } had
has } has } has } has }
- の類。

この最後の have } had の前の have や has は助動詞で、後の had が本當の動詞です。

- (5) 過去完了 には、had を助動詞に (主語が何でも had です) 使ひ、それと過去分詞形とを並べます。had looked, had liked, had done, had had の類。
- (6) 未来完了 には、shall また will と have と二つを助動詞に使ひ、それと過去分詞とを並べます。shall }
will }
have looked, shall } have liked, shall } have done,
will } will }
shall } have had の類で、主語が第三人称単数でも、will }
have を has に改める必要はありません。has を使ふのは、主語と直ぐ並んで he has だの she has となる場合に限るので、中に shall や will がはさまる時は、he will have, she shall have といつた風に、いつでも have を使ふのです。

will [wil ウイル], shall [ʃæl シェアル]。

つまり、「完了」の名の附く時は、いつでも動詞は過去分詞形で、これに、現在は have, has を、過去は had を、未来は shall have または will have を添へるのです。また未来の名の附くものは、唯の未来でも、未来完了でも shall か will を助動詞として、本當の動詞に添へるのです。そして唯の現在には現在形、過去には過去形、未来には shall, will と根形を使ふ……と、斯う覚えておいて下さい。

[例題]

次の動詞の六つの「時」の形を答へて下さい。

341. go (主語は he) 342. read (主語は we)
343. write (主語は I)

[答]

	現在	過去	未来
341.	He goes.	He went.	He will go.
342.	We read.	We read.	We shall go.
343.	I write.	I wrote.	I shall write.
	現在完了	過去完了	未来完了
341.	He has gone.	He had gone.	He will have gone.
342.	We have read.	We had read.	We shall have read.
343.	I have written.	I had written.	I shall have written.

read さいふ動詞は、綴字は同じですが、根形と現在形は [ri:d] と読み過去形と過去分詞形は [red] と読むのですから、読みまちがへないようにせねばなりません。

be さいふ動詞の「時」の変化は、中々複雑です。次に其全部を書きますから、よく覚えておいて下さい。主語 she や it を始め、I と you と以外の単数の語が主語の場合は、次の he の場合と同じだと知つて下さい。

(1) 現在

I *am*. You *are*. He *is*.
We *are*. You *are*. They *are*.

(2) 過去

I *was*. You *were*. He *was*.
We *were*. You *were*. They *were*.

(3) 未来

I *shall be*. You *will be*. He *will be*.
We *shall be*. You *will be*. They *will be*.

(4) 現在完了

I *have been*. You *have been*. He *has been*.
We *have been*. You *have been*. They *have been*.

was [wɒz ウおズ], were [wɜ: ウあー]

(5) 過去完了

I *had been*. You *had been*. He *had been*.
We *had been*. You *had been*. He *had been*.

(6) 未来完了

I *shall have been*. You *will have been*.
He *will have been*.

We *shall have been*. You *will have been*.

They *will have been*.

つまり、現在に am, are, is 過去に was, were, 未来に shall か will と be 完了には全部 been を使ふと覚えておけばよろしいわけです。

以上六つの「時」には、別にまたそれぞれの進行形 (Progressive Form) さいふのがあります。即ち

- (1) 現在進行形
- (2) 過去進行形
- (3) 未来進行形
- (4) 現在完了進行形
- (5) 過去完了進行形
- (6) 未来完了進行形

進行形には、總て上記の be の各變化の形を使ひ、それと

progressive [prɒgrɛsɪv プラグレシヴ] 進行の。

現在分詞形を並べるのです。look さいふ動詞の進行形は

(1) 現在進行形

I am looking. You are looking.

He is looking.

We are looking. You are looking.

They are looking.

(2) 過去進行形

I was looking. You were looking.

He was looking.

We were looking. You were looking.

They were looking.

(3) 未来進行形

I shall be looking. You will be looking.

He will be looking.

We shall be looking. You will be looking.

They will be looking.

(4) 現在完了進行形

I have been looking. You have been looking.

He has been looking.

We have been looking. You have been looking.

They have been looking.

(5) 過去完了進行形

I had been looking. You had been looking.

He had been looking.

We had been looking. You had been looking.

They had been looking.

(6) 未来完了進行形

I shall have been looking.

You will have been looking.

He will have been looking.

We shall have been looking.

You will have been looking.

They will have been looking.

斯んな風で、進行形は、be の六つの「時」の變化を知らなければ作ることは出来ません。be の各變化の次に、現在分詞形の動詞を並べたものが、それが各進行形であるのですから。

[例題]

次の動詞の各進行形を答へて下さい。

344. go (主語 he)。 **345.** read (主語 we)。

346. write (主語 I)。

[答]

344. 現在進行形 He is going.
 過去進行形 He was going.
 未来進行形 He will be going.
 現在完了進行形 He has been going.
 過去完了進行形 He had been going.
 未来完了進行形 He will have been going.
345. 現在進行形 We are reading.
 過去進行形 We were reading.
 未来進行形 We shall be reading.
 現在完了進行形 We have been reading.
 過去完了進行形 We had been reading.
 未来完了進行形 We shall have been reading.
346. 現在進行形 I am writing.
 過去進行形 I was writing.
 未来進行形 I shall be writing.
 現在完了進行形 I have been writing.
 過去完了進行形 I had been writing.
 未来完了進行形 I shall have been writing.

さて、これから以上の十三の「時」の形は、みんな意味をあらはす場合に使ふのか、その使ひ方を簡単に説明いたしませう。

(1) 現在形 「現在」だから、現在の事を述べるに使ふこ、誰しも考へるでせうが、實はさうでないことを述べる場合に、此形を使ふところがあるのです。

(イ) 真理 古今東西を通じて、何處、何時でもさうであることを述べるに、現在形を使ひます。

The sun *rises* in the east.

The earth *is* round.

太陽が東に昇るこ、地球が丸いこは、古今東西を通じてのこで真理です。ですから現在形の *rises* や *is* が使はれてゐるのです。

(ロ) 習慣 いつでもするこ、今に限らないことを述べるにも現在形を使ひます。

I always *get* up at six.

He *studies* hard.

六時に起さるこ、勉強するこが、今だけでなく、平素の習慣になつてゐるこいふので、*get*, *studies* こ現在形を使ふのです。この外に

(ハ) 現在の有様、動作 を述べるにも、現在形を使ふ動詞もありますが、大抵の動詞は、この意味には現在進行形の方を使ふのです。He *studies* hard. は「いつも勉強す」こ習慣的のこをいふので、「今現に勉強してゐる」こいふのでしたら、

He *is studying* hard.

こ、現在進行形を使ふのです。同じわけで

A shoe-maker *makes* shoes.

靴屋は靴をつくる(職業)

He *is making* shoes.

靴をつくつてゐる(今、現に)

よく、この二つの區別を明かにして覚えておいて下さい。

それでは、ごんな動詞が「現在のこゝ」をいふに、現在進行形を使はないで、唯の現在形を使ふかご申すこゝ、それは當然或る時間の間繼續する動作や有様を示す動詞、日本語で「何々してゐる最中」ごはいはない動詞です。「勉強してゐる最中」「靴をつくつてゐる最中」ごは言はれますが、「學生である最中」「眼を二つ持つてゐる最中」「神田に住んでゐる最中」「英語を知つてゐる最中」「船が見える最中」なごごは言はれない、言へば變でせう。斯んな動詞は、ですから、現在のこゝをいふに、次の通りに唯の現在形を使ふのです。

I *am* a student.

I *have* two eyes.

I *live* in Kanda.

I *know* English.

I *see* a ship.

斯んな進行形を使はない動詞は、上記の五つの外にも、まだ可なり澤山あります。like, dislike, love, hate, hear, watch, remember なごは、其中の主なものです。(勿論、此等の動詞は必ず進行形を使はぬごいふのではありません。其あらはす意味によつては進行形を使ふこゝもあるのですが、それ等は進んだ文法書で御承知を願ふこゝにしてこゝには述べません)。

以上で、現在形は、眞理、習慣を述べるに使ひ、現在の動作や有様を述べるには、動詞によつては、現在形を使ふものもあるが、大抵は、別の現在進行形を使ふ。ごいふこゝがお解りになつたでせう。

(2) 過去形 これは過去、即ち今より以前に起つたこゝ、また以前にあつた有様を述べるに使ふのです。

I *got* up at six this morning.

He *studied* very hard last night.

今朝のこゝ、昨夜のこゝで、今に關係のないこゝですから、過去形の got や studied が使つてあるのです。

過去に進行中の事、最中やつてゐた事、さうであつた事を述べるには過去進行形を使ひます。

He *was studying* when I called on him.

He *was making* a shoe at that time.

自分が訪ねた時には、勉強してゐる最中であつた。其時

には靴をつくつてゐる最中であつたのですから、過去進行形が使つてあるのです。たゞし、進行形を使はぬ動詞(上記の is, have 等)は、この場合にも、唯の過去を使つて

He *knew* English.

He *was* a student.

さいつた風にするこは申すまでもありません。

また、過去の習慣、「いつも……であつた」意をあらはすには

He *used to* get up early.

彼はいつも(きまつて)早く起きた。

He *would* often study till late.

彼は度々遅くまで勉強した。

のやうに「used to + 根形」や「would + 根形」を使ひます。前者は「いつもきまつて」のこ、後者は、それほぎ、いつもこは言はれぬが「往々……こがあつた」の意をあらはすのです。

以上で、過去のこを述べるには過去形。過去に進行中のこを述べるには過去進行形、たゞし進行形のない動詞に限り、唯の過去形を使ふ。過去の習慣は「used to または would こ根形」を並べた形を使ふ、こいふこがお解りになつたでせう。

(3) 未来形 日本語では「毎日行く」「明日行く」「いつも

する」「今晚する」さいつた風に、いつものこを言ふにも、明日や今晚のこのやうな、これから以後のこ、即ち未来のこをいふにも同じやうに「行く」「する」さいひますが、英語では決してそんなこはないのです。未来のこをいふには必ず未来形、即ち shall か will かこ、根形を並べた動詞の形を使つて

I *shall* go to-morrow.

I *will* do it to-night.

さいつた風に言ふのです。

また未来に「最中してゐる筈のこ」「さうあるべき最中のこ」を述べるには、未来進行形を使つて

I *shall be* going.

I *shall be* doing it.

さいつた風に言ふ(たゞし、進行形のない動詞は、唯の未来形を使ふ)のです。

shall こ will この使ひ方に就ては、六づかしい規則がありますが、詳しいこは、進んだ文法書に譲つて、今は次のこだけを覚えておいて下さい。

[甲] 「何々する考へ」こ、自分の考へ、心(文法で「意志」さいふ)でするこをいふには、いつでも will を使ふ。

[乙] 「何々の筈」こ、自分の考へでなくて、自然にさうなるべきこ、規則なこで、さうせねばならぬ筈のこをいふには、主語が第一人稱、即ち I か we には shall で、其

他には矢張り will を使ふ。

[丙] 私が君に斯うさせる、彼に斯うさしてやるといつた風の、I の意志をいふには you shall, he shall のやうに shall を使ふ。この三つをよく覚えておいて下さい。

「彼は横濱へ行く考へでゐる」これは「彼」の「意志」をいふのですから [甲] で

He *will* go to Yokohama.

です。「私は横濱へ行く考へ」も同様に

I *will* go to Yokohama.

です。併し「彼は來年十五歳になる」「私は來年十五歳になる」は意志ではありませんから、[乙] で

He *will* be fifteen next year.

I *shall* be fifteen next year.

こ I, we には shall, 其他には [甲] と同じく will です。

「君は横濱へ行く(私が命ずる)」「彼はそれを持つ(私がやる)」をいふには

You *shall* go to Yokohama.

He *shall* have it.

こ、you や he (二人稱、三人稱) に shall を使ふ、即ち [丙] です。

未來に進行すべきこと、最中何々してゐる筈の意を示すには、未來進行形を使ひます。(進行形のない動詞は、この

意味にも、唯の未來形を使ふことは、申すまでもありません)。

I *shall* be studying then.

其時には勉強してゐる最中でせう。

It *will* be snowing when he comes this evening.

今夕彼の來る時には雪が降つてゐるでせう。

[例題]

次の意味をあらはす英文を作つて下さい。

347. 彼は彼の父に似てゐる。
348. 學校はあの丘の上にたつてゐます。
349. 乞食が入口に立つてゐます。
350. 私はあの屋根に二羽の鳥が見えます。
351. 大工は家をたてます(職業)。
352. 大工が家をたてゝゐます。
353. 私は昨日横濱へ行きました。
354. 私は明日横濱へ行きます(意志)。
355. 私は今夜彼を訪ふ筈です(意志でない)。

347. 似てゐる resemble [rizémbɪl リゼムブル], 348. 丘 hill [hil ひル], 349. 乞食 beggar [béga ベガ], 入口に at the door [dɔ: どの], 350. 屋根 roof [ru:f るーフ], 351. 大工 carpenter [ká:pintə かーピヌタ], 建てる build [bild ビルド], 355. 訪ふ call on また visit.

356. 私は君にそれを見せる (君はそれを見る)。
 357. 彼はいつも早く起きました。
 358. 其時父は本を讀んでゐました。
 359. 其時父は本を讀んでゐるでせう (未來)。
 360. 明朝は雨が降つてゐるでせう。

[答]

347. He resembles his father.
 resemble は進行形のない動詞です。
 348. The school stands on that hill.
 349. A beggar is standing at the door.

學校はいつも「たつてゐる」のですから、現在形の stand(s) ですが、乞食は今だけ立つてゐるのですから、進行形の is standing でなくてはなりません。

350. I see two birds on the roof.
 see は進行形のない動詞です。
 351. Carpenters build houses.
 352. The carpenters are building a house.
 351 は、總ての大工、總ての家をいふのですから、冠詞なしの複數、または a か the を單數につけるのですが、352 は、或る大工達が或る一軒の家を建てゝゐるのですから、冠詞が入用です。また一方はいつも建てゝゐるが職業で、いつものことをいふのですから、動詞は現在形ですが、一

方は、今建てゝゐる最中をいふのですから、現在進行形でなくてはなりません。

353. I went to Yokohama yesterday.

過去のことをいふのですから、過去形の went です。

354. I will go to Yokohama to-morrow.

未來のことで、意志ですから未來形の「will + 根形」です。

355. I shall call on him to-night.

同じ未來でも、意志ではありませんから、shall です。

356. You shall see it.

「私」を主語にするに、I will show it to you. となります。show は「示す」「見せる」です。

357. He used to get up early.

過去の習慣をいふのですから、「used to + 根形」です。

358. Father was reading (a book) then.

過去進行形です。

359. Father will be reading (a book) then.

未來進行形です。

360. It will be raining to-morrow morning.

同じく未來進行形で、「雨がふる」「雪がふる」など、天氣

模様をいふ文は、いつでも it を主語に使ふがきまりです。

次に完了形のお話に進ませう。

(4) 現在完了形 この形は主として、次の三つの意味のどれかを用いる場合に使ふのです。

(イ) 現在までに完了したこと 或る過去の時にやり始めたことが今はもうやり終つて、即ち完了して、今はもう其事はしてゐないといふ意味。

I have written the letter.

手紙はもう書いてしまつた、今は書いてゐない。

I have forgotten it.

もう忘れてしまつた、今は覚えてゐない。

(ロ) 過去の経験 前に斯ういふことをした、こんなことがあつたといふ意味で、これは唯の過去形を使つても、結局同じことです。

I have seen a tiger.

= *I saw a tiger.*

虎を見たことがあると過去にしたこと、経験を述べてゐるのです。

I have been there before.

前にゐたこと、行つたことがある。この場合、*I have gone* としてはいけません。have gone は「行つてしまつた(だ

から今此處にゐない) といふ「完了」の意味を述べるだけに使つて、「行つたことがある」といふ経験を述べるには、必ず have been を言はんければならぬことになつてゐるのです。have come も同様に「来てゐる」「来てしまつた」と完了にのみ使つて、「来たことがある」といふ経験には、やはり have been を使ふのです。其他の動詞は、例へば、have read は「読んでしまつた」「讀んだことがある」、have seen は「見てしまつた」「見たことがある」といつた風に、完了、経験、どちらの意をあらはすにも使ひますが、have gone と have come とだけは例外で、完了の意にのみ使つて、経験には have been を代用するといふことを、確かに覚えておいて下さい。

(ハ) 或る過去の時より、現在まで繼續してゐること 例へば「彼は今朝から勉強してゐる」「昨夕から引續き雨がふつてゐる」といつた風の繼續を示す場合には、前に申しました進行形のない動詞は、たゞの現在完了形を、進行形のあつた動詞は、現在完了進行形を使ふことになつてゐるのです。

上例の「勉強す」「雨がふる」には、進行形がありますから、

He has been studying since this morning.

It has been raining since last evening.

といつた風に、現在完了進行形を使はねばなりません。が、「彼は日曜日からすつと病氣でゐる」「私は長い間彼を知つ

「てゐる」なごには、進行形がありませんから、

He *has been* ill since last Sunday.

I *have known* him long.

さいつた風に、唯の現在完了形を使ふのです。

つまり、現在完了形は、現在までに、完了したご、経験したご、及び現在まで継続してみたごを述べるに使ふのですが、進行形のある動詞だけは、継続の意には、現在完了進行形を使ふ。

has gone ご have come ごは、特に完了の意にだけ使つて、経験の意には、have been を代用す。ご、これだけのごをよく覚えておいて下さい。

尙、一つ注意せんければならぬごがあります。それは次の二つの場合には、決して現在完了形を使つてはいけな、必ず唯の過去形を使へごいふごです。

(イ) When (いつ)? ご問ふ時。

(ロ) 「昨日」「先月」「去年」なご、總て過去の時を示す語句のついでる時。

ですから

When *have* you *seen* him?

I *have seen* him yesterday.

は誤りです、必ず

When *did* you *see* him?

I *saw* him yesterday.

ご、過去形の動詞を使はねばならぬのです。

もう一つ、have been の次に現在分詞、~ing が附いてゐる時は、前に申した現在完了進行形で、have been の次に in (また at) ご場所を示す語が附くご、これも前に申した経験を示すので

I *have been in* Osaka.

大阪へ行つたごがある。

大阪にゐたごがある。

He *has been at* Oiso.

大磯へ来たごがある。

大磯にゐたごがある。

ごころが、have been の次に to ~ ご附くご、意味が全くちがつて、「行つて(今歸つて)来た」ごいふ意味をあらはすのです。

I *have been to* Osaka.

大阪へ行つて(今歸つて)来た。

He *has been to* Oiso.

大磯へ行つて(今歸つて)来た。

here, there のやうな副詞、即ち前置詞を使はない語句が

have been の次にある場合は、ごちらの意味が解りませんから、其場合から考へて區別するより外はありません。

I have been *there*.

其處へ行つたことがある。

其處へ行つて(今歸つて)來た。

[例題]

次の意味をあらはす英文を作つて下さい。

361. 君は鯨を見たことがありますか。
 362. はい、一度あります。
 363. 何處で見ましたか。銚子で見ました。
 364. いつ見ましたか。一昨年見ました。
 365. 彼は何をしてゐたのですか。
 366. 自分の部屋で手紙を書いてゐました。
 367. 君はもう手紙を書いてしまつたか。はい、終りました。
 368. 君は何處へ行つて來たのか。
 369. 京都へ行つて來た。
 370. 君は名古屋へ行つたところがあるか。ある。

361. 鯨 whale [weil ウェイル]。 一度 once [wans カヌス]。 364. — 昨年 the year before last.

[答]

361. Have you seen a whale?

Have you *ever* seen.....? こすれば一層よろしい。 *ever* は「嘗て」「いつか」を問ふ時に使ふ副詞です。また唯の過去を使つて、Did you ever see a whale? こしてもよろしい。

362. Yes, I have once (seen one).

また Yes, I once saw one. なぎ、過去形を使つてもよろしい。 *once* は「一度」の意です。

363. Where have you seen it?—I have seen it at Chōshi.

勿論過去を使つて、Where did you see it?—I saw it at Chōshi. こしてもよろしい。

364. When did you see it?—I saw it the year before last.

When? を問ふ場合、the year before last を過去を明示する語句の附く場合ですから、現在完了形を使つてはいけません。必ず過去形でなくてはならぬのです。

365. What have you been doing?

366. I have been writing a letter in my room.

先きから引續き、何をしてゐた、手紙を書いてゐたさい

ふのですから、現在完了進行形を使はねばならぬのです。

367. Have you written it?—Yes, I have (written it).

完了ですから、現在完了を使ふのです。

368. Where have you been (to)?

369. I have been to Kyoto.

この to を at や in と誤らないやうに注意して下さい。

370. Have you ever been in Nagoya?—Yes, I have (been there).

これは経験の方ですから in (狭い場所なら at) の方です。

次に過去完了と未来完了のここに進ませう。

(5) 過去完了 (6) 未来完了 この二つの形は、現在完了が、現在を標準にして、現在までに完了したこゝ、経験したこゝ、及び現在まで継続してゐたこゝを述べるに同じわけ、或る過去の時、または未来の時を標準として、其時までに完了したこゝ、完了すべきこゝ、其時までに経験したこゝ、すべきこゝ、それから、その時まで継続したこゝ、すべきこゝを述べるに、この二つの形を使ふのです。そして継続の場合には、進行形のある動詞でしたら、過去完了進行形、または未来完了進行形を使はねばならぬこゝも、現在完了進行形を使はねばならぬに同じわけです。

(イ) 完了の例

I *had read* the book before he came.

彼の来た時より前に其本を讀んでしまつた。

I *shall have read* the book before he comes.

彼が来る時までに其本を讀んでしまふ筈です。

(ロ) 経験の例

I *had been* there several times before that time.

其時より前に幾度も其處へ行つたこゝがあつた。

I *shall have been* there before that time.

其時より前に其處へ行く筈です。

(ハ) 継続の例

I *had lived* there for five years by that time.

其時までに五年其處に住んでゐました。

I *shall have lived* there for five years by
March next.

この三月で五年其處に住むこゝになります。

これは進行形のない動詞 live の例です。進行形のある動詞でしたら、

I *had been studying* English for five years by
that time.

其時までに五年英語を研究してゐました。

*I shall have been studying English for five years
by March next.*

この三月まで、五年英語を勉強してゐるこゝに
なります。

[例題]

次の意味をあらはす英文を作つて下さい。

371. 私が静岡に着いた時には、彼はもう同地を出發して
りました。
372. 私は先月日光へ行きました、同地は私が久しく行き
たいと思つてゐた所です。
373. 夜中雨が降つたので、道は泥濘でした。
374. 夜があけてから雨はやみました。
375. 私は昨日買った本を彼に貸しました。
376. 彼は君が着くまでに出發してしまふでせう。
377. 私はもう一度此本を読むに三度読むこゝになりま
す。
378. 私は寢床にはいるまで、ずつ勉強してゐました。

372. 久しく long. 行きたいと思ふ wish to go. 373. 道 roads [roudz
ろウツ], 泥濘で muddy [mádi まドイ]. 374. 夜があける dawn [do:n ど
ヌ]. やむ cease [si:s サイス]. 375. 買った bought [bo:t ぼト]. 貸
した lent [lent れヌト].

379. 雨が降る前に私等は其處に到着してゐるでせう。

380. 彼が来る時には私はまだ勉強してゐるでせう。

[答] 過去と未來とを誤らぬやうに、よく注意して、立派な
答案を作つて下さい。

371. When I got to Shizuoka, he had already started
there.

静岡に着いた時より、彼の出發した時の方が以前ですか
ら、其方を過去完了で書くのです。總て斯んな風に、前後
した二つの事件を並べて書く時には、前の方には過去完了
の動詞を使はねばならぬのです。これは順序をあべこべに

He had already started from Shizuoka, when I
got there.

にしても同じです。たゞし、and でつないで、出來事の順
序に、前にあつた事を and より前に、後のこゝを後に書く
場合限り

He started from Shizuoka and (after that) I got
there.

こいつた風に、双方に過去形を使つてよい、いや、必ず過去
形を使はねばならぬのです。

372. I visited Nikko last month, where I had long
wished to go.

この where は關係副詞です。望んでゐたのは、行つた時

より前のことですから、過去完了を使ふのです。たゞし出来事の順に、and でつなく時は、前題に申した通りに、双方に過去を使へばよろしい。

I wished long to go to Nikko, and visited there last month.

373. The roads were muddy, for it had rained during the night.

泥濘であつた事より以前、即ち前夜に降つたのですから、其方には過去完了形を使ひます。たゞし and でつなげば、例の通りに

It rained during the night, and the roads were muddy.

こゝ、双方過去形でよろしい。

374. The rain ceased after the day had dawned.

または The day dawned and the rain ceased.

375. I lent him the book which I had bought yesterday.

この which は関係代名詞です。and を使へば

I bought a book yesterday and lent it to him.

こゝ、双方過去形でよろしい。

376. He will have started there before you arrive.

これは未来のことで、君が着くより前に、彼が出発するの

ですから、其方に未来完了形を使はねばならぬのです。

377. I shall have read the book three times, if I read it once more.

もう一度読めば、三度読んでしまふといふ未来のことですから、未来完了形を使ふのです。if の次は未来のことをいふのでも、if I will read.....といつた風に、shall や will を使ふに及ばない定めです。

378. I had been studying before I went to bed.

寢床に行つたといふ過去の時まで、引續き勉強してゐたこゝ、繼續の事をいふのですから、過去完了進行形を使はねばならぬのです。

379. We shall have arrived there before the rain comes on.

雨の降るのは未来のことで、其時までに到着してしまつてゐようといふのですから、未来完了形を使ふのです。雨の降ることも未来ですが、when で始まる時は、上記の if の場合と同様に、shall も will も使ふに及ばないのです。before なぎの時もやはりさうです。

380. I shall have been studying when he comes.

彼の来るのは未来のことで、其時より以前から、其時にか

378. 寢床にはひる go to bed.

けて、繼續して勉強してみようといふので、未來完了進行形を使ふのです。when he comes と、未來のこゝだに shall も will も使はないのは、前題に説明した通りで、副詞節の場合は皆さうなのです。

さて、これで動詞の「時」のお話は、一通り終わりましたが、實は中々六づかしい規則なごがあつて、もつと詳しく説明したいと思つたのですが、豫定の頁に制限せられて、止むを得ず大體に止めたのです。さうか進んだ文法書に就て、他日もつと詳しく研究して下さいまし。

尙、これより進んで、動詞の「態」(Voice) と、「法」(Mood) のお話に入り、次に「助動詞」(Auxiliary Verb) や「變體動詞」(Verbal) の「不定詞」(Infinitive) や「分詞」(Participle) 「名動詞」(Gerund) のお話に進むのですが、これ等は更に一層六づかしくなりますし、殊に頁數の制限もありますから、全部進んだ文法書で読んでいたゞくこゝして、本書には割愛するこゝしました。

また、動詞の次に、接續詞、前置詞、間投詞のお話をもすべき筈ですが、これ等は前に大體述べましたから、再説するこゝを省略します。

17.

英文法を學ぶ心得と、今後の注意

源 牛若君は、手垢で可なりに汚れた『英文法入門』を持つて、意氣揚々として、師の坊の室に入つて來ました。

牛若『お師匠様、やつとこの「英文法入門」を読んでしまひました。中々六づかしいでしたが、大に利益を得ました』

師の坊『さうか、それはよかつたのう。併しそんな本は、唯読んでしまつた... といふだけではいけないよ。書いてあるこゝを、よく覚え込むまで、三度も五度も繰りかへして讀まんければならぬぞよ』

牛若『それは私も知つてゐます。ですから一章を終るご、其章を繰りかへして、もう一度讀み、大切な所は、赤インキで線を引いたり、○や×なごのしるしを附けて、今後また讀む時の目じるしにしておきました。書いてある規則なごは、大體覚えてしまつたつもりです』

師の坊『それは感心ぢや、大に感心ぢや。學科の本は、いつでもそんな風にしなくてはならぬ。圓本を讀むやうに、寢つころがつて、半分夢うつゝで讀んだのでは、百遍讀んでも駄目ぢや。それから、えゝご、さうぢや。これも話して置かんければなるまい。文法といふものは、本を讀む

時、文を作る時、話をする時の標準、手引きとなるべき規則を教へるものぢやが、規則は規則で覚えて、これを讀書、作文、會話に應用しない人間が相當にあつて困る。本を読む時にも、文を作る時、話をする時にも、いつもこの規則を應用して、實地に役に立てなくてはならぬ。疊の上で水練の規則を教つただけでは、何の役にも立たぬ。實地、水に入つて、その規則を實地に應用して見ねばならぬ、それと同じことぢや。文法で教つた規則を、頭の片隅に片付けておいてるやうでは、何の役にも立たぬからのう』

牛若『はい、その事は、私も心得て、本を読む時には、これが主語、これが目的語を考へて見たり、この語は抽象名詞、この語は性質形容詞を調べて見たり、出来るだけ應用はやつてゐるつもりです』

師の坊『さうか、その心得があつて、始めて文法を學んだ利益があるのぢや。これからも怠らぬようにしなさいよ』

牛若『はい……。所で、お師匠様。この「英文法入門」に、よく「進んだ文法書」を讀めといふことが書いてありますが、それにはどんな本がよろしいでせうか』

師の坊『それは幾らも立派な本がある。併し成るべくなら、同じ著者の本の方がよいから、吉田さんのやはり研究社から發行してゐられる「英文法の話」や「英文法新話」「英

文法の手ほぎき」なといふ本を讀むのが一番よからう』

牛若『でも、この本も皆、最終まで完結してゐないといふではありませんか』

師の坊『吉田さんは忙しいのでのう。併し「英文法新話」だけは、きつ引續き書くやうなことを言つてゐられたから、お前が既刊の三冊を讀んでゐる中には、第四篇以下も發行されるだらう。「英文法の話」の方は、新話に似よりの内容だから、ごちらか一方が完成すればよいわけぢや。「手ほぎき」の下篇も、中には出るだらうが、これは新話さへ出れば、出なくても差支ないと言へば言はれる』

この時、牛若の兄弟子の雲突坊がはひつて來ました。そして師の坊の話聞いてゐましたが、

雲突『お師匠様、吉田先生は、「新話」の外に、「新話」を書く前に、「英文法入門」の續篇ともいふべき「英文法讀本」といふのを三冊出すと言つてゐらつした、ご確かに聞きましたよ』

師の坊『さうか、「入門」の續篇なら、「新話」はまたちがつた組織ぢやらう』

雲突『さうですて、何でも、第一冊には、some とか any とか、hardly とか seldom とか、いろいろの語句の使ひ方、第二冊には、動詞と前置詞との詳しい使ひ方、第三冊の終卷には、語法とか單文、混文、複文の作りかへとかいつた

風の文に関する詳しい説明を載せる予定で、第一名詞、第二代名詞といった風の品詞順ではなく、文法全体に通じて、それを三段に縦断して、三冊に書きつくすといふ新しい試みで、第一冊は既に半ば近くも書き上げられてゐるといふことです』

師の坊『それは新しい面白い試みぢやのう。そして「新話」の方は品詞順に、今までの文法書の体裁で行くのだから、ごちらでもお好きな方をお読みなさいといふわけぢやな』

牛若『お師匠様、私は両方とも讀みます。体裁がちがへば、内容も變ることですから』

雲突『私もその考へです。丁度一冊讀むに三月かゝるゝすれば、それを讀み終つた頃には、その次が出るから、丁度いゝ都合です』

師の坊『牛若は讀んだのだつたのう、「英作文入門」の方も』

牛若『はい、讀みました』

雲突『あれの續篇も「英作文讀本」といふ名で、やはり三冊出る予定で、これは第一冊が、中學二年程度、第二冊が三年程度、第三冊が四五年程度になるのだといふことです』

師の坊『吉田さんは、それでは益々多忙ぢや。お前達も吉田さんにまけないやうに、勉強しなければならぬぞ』

牛若『はい』

雲突『大に勉強します』

— [終] —

索引

本書中に出てゐる文法上の術語を A B C 順に次に出す。日本語名は、ローマ字綴で、例へば「名詞」は M の部に、「文」は B の部にあるの類。数字は其語の始めて、または説明附で出てゐる頁を示したのである。

[A]

Adjective 33
Article 33
Adverb 33
Adjective Phrase 45
Adverbial Phrase 45
Adjective Clause 57
Adverbial Clause 57
Assertive Sentence 99
Affirmative Form 99
Abstract Noun 118
Adjective Pronoun 129
a, an の讀方 163
Auxiliary Verb 282

[B]

母音字 4
文 6, 69, 99, 110
文の主要部 110

物質名詞 118
物質形容詞 197, 198
分詞状形容詞 197
倍數 200
分詞 282

[C]

Clause 7, 53
Complement 19
Complement Word 29
Complement Modifier 29
Conjunction 33, 55, 76
Complex Sentence 69
Compound Sentence 69
Coordinate Conjunction 76
抽象名詞 118
Common Noun 118
Collective Noun 118
Common Gender 139
Case 142

Comparison 211
Comparative Degree 212
Conjugation 236

[D]

動詞 19, 33
代名詞 33
大字 36
Declarative Sentence 99
獨立部(文の) 113
男性 139
同格語 143
獨立形(人稱代名詞所有格の) 154
第一人稱 157
第二人稱 157
第三人稱 157
代名詞の用法 160
Definite Article 163
代名形容詞 197, 200
同程度の比較 226

[E]

英語の字 1
Exclamative Sentence 99
Exclamation Mark 104

[F]

不全動詞 20

不全自動詞 20
不全他動詞 20
副詞 33
副詞句 46
不定詞 49, 282
副詞節 57
複文 69
Full Stop 100
普通名詞 118
複數 133
Feminine Gender 139
(the) First Person 157
不定冠詞 163
不定冠詞の特別の意味 177
不定數 200
副詞の用法 232
不規則動詞 238

[G]

語 2
疑問詞 56, 90
疑問代名詞 90, 129
疑問副詞 90, 205
疑問文 99, 100
疑問符 102
合成名詞 135
原級 212
現在形 236

現在分詞形 236
現在 253
現在完了 253
現在進行形 257
現在完了進行形 257
現在形の意味 261
現在進行形の意味 261
現在完了形の意味 270
現在完了進行形の意味 271
現在完了形を使つてならぬ場合 272
Gerund 282

[H]

補足部 19
本動詞 22
補足語 29
補足語の修飾語 29
品詞 33
八品詞 33
平叙文 99
否定形 99
比較 211
比較級 212
have been in (at) さ have been to
の區別 272
法 282
變體動詞 282

[I]

Interjection 33
Infinitive 49, 282
Interrogative 90
Interrogative Pronoun 90, 129
Interrogative Adverb 90, 205
Interrogative Sentence 99
Imperative Sentence 99
Interrogation Mark 102
Indefinite Article 163
Irregular Verb 238

[J]

字 1
熟音 4
熟語 6
述部 18
述動詞 19
自動詞 20
助動詞 22, 282
從節 54
從屬接續詞 76
叙述文 99
人稱代名詞 129
女性 139
人稱代名詞の變化表 152
人稱 157

序数 200

[K]

假名 2

漢字 2

句 6, 38, 45

完全動詞 20

完全自動詞 20

完全他動詞 20

形容詞 33, 197

冠詞 33, 163

間投詞 33

感歎詞 33

感動詞 33

感歎文 41, 99, 103

形容句 45

關係詞 56, 92

形容節 57

假設主語 61

混文 69

關係代名詞 92, 129

關係副詞 92, 205

祈願文 99, 107

肯定形 99

感歎符 104

假設目的語 112

固有名詞 118

形容代名詞 129

格 142

冠詞と名詞 163

冠詞の代用をする語 171

冠詞の位置 173

冠詞の特別の意味 177

固有名詞と冠詞 184

冠詞の省略 190

固有形容詞 197, 199

基数 200

形容詞の用法 231

活用 236

根形 236

過去形 236

過去分詞形 236

規則動詞 238

過去 253, 263

過去完了 253, 276

過去進行形 257, 263

過去完了進行形 257, 276

過去の習慣 264

[L]

letter 2

[M]

目的部 19

目的部の補足部 24

目的語 29

目的語の修飾語 29

Modifier 29

名詞 33, 118

名詞句 47

名詞節 57

命令文 99, 106

Material Noun 118

無性 139

Masculine Gender 139

目的格 143

名詞の用法 160

未来 253, 264

未来完了 253, 265

未来進行形 257, 276

未来完了進行形 257, 276

Mood 282

名動詞 282

[N]

日本の假名 2

二重目的部 24

Noun 33, 118

Noun Phrase 47

Noun Clause 57

Negative Form 99

Number 132

Neuter Gender 139

Nominative Case 142

Number and Person (Verb の) 247

[O]

音 4

Object 19

Object Word 29

Object Modifier 29

Optative Sentence 99

Objective Case 143

[P]

Phrase 6

Predicate 18

Predicate Verb 19

Predicate Modifier 29

Pronoun 33

Preposition 33

Principal Clause 54

Period 100

Proper Noun 118

Personal Pronoun 129

Plural Number 132

Possessive Case 143

Person 157

Pronominal Adjective 197

Positive Degree 212

Present Form 236

Past Form 236

Present Participle 236
 Past Participle 236
 Progressive Form 257
 Participle 282

[Q]

Qualifying Adjective 197
 Quantitative Adjective 197

[R]

六種の文 9
 Relative 92
 Relative Pronoun 92, 129
 Relative Adverb 92, 205
 連接部 111
 Root Form 236
 Regular Verb 238

[S]

Sound 4
 素音 4
 Sentence 6, 69
 節 7, 53
 主部 18
 Subject 18
 主部の補足部 24
 主語 28
 修飾部 28

Subject Word 28
 修飾語 29
 Subject Modifier 29
 接續詞 33, 55, 76
 Subordinate Conjunction 76
 主節 53
 Subordinate Clause 54
 Simple Sentence 69
 Statement 99
 終止符 100
 挿入の語句 114
 集合名詞 118
 Singular Number 132
 性 139
 主格 142
 所有格 143
 所有格(名詞)の作り方 147
 所有格(名詞)の用法制限 148
 所有格の意味 149
 (the) Second Person 157
 性質形容詞 197
 數量形容詞 197, 200
 Simple Adverb 197
 最上級 213
 Superlative Degree 213
 數及び人稱(動詞の) 247
 進行形 257
 進行形のない動詞 262

Shall と Will の區別 265

[T]

單語 6
 てにをは 15
 添辭 15
 他動詞 20
 つなぎこまは 55
 單文 69
 對立接續詞 76
 單數 132
 通性 139
 (the) Third Person 157
 定冠詞 163
 The の読み方 164
 定冠詞の特別の意味 179
 單純副詞 197
 定數 200
 The (副詞の) 209

時 253
 Tense 253
 態 282

[V]

Verb 19, 33
 Voice 282
 Verbal 283

[W]

Word 2

[Y]

呼びかけの語句 114
 Yes と No の使ひ方 207

[Z]

前置詞 33
 前置詞の目的語 40





英文法入門



昭和四年一月十二日印刷

昭和四年一月十六日發行

著 者 吉 田 幾 郎

發行兼印刷者 小 酒 井 五 郎
東京市麴町區富士見町六丁目五番地

印 刷 所 研 究 社 印 刷 所
東京市牛込區神樂町一丁目二番地

發 行 所 研 究 社

東京市麴町區富士見町六丁目五番地
電話九段四〇二・四〇三番
振替口座東京二八六〇一番

定價金壹圓廿錢

320

268

終